

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

連番	659	例会No.	一般425	内容	ベーシック登山No.33 琵琶湖疎水から大文字山南禅寺	実施年月日	2015/11/1	担当者	小椋(勝)、西村(晶)		
参加者	小椋勝久、西村晶、黒澤百合子、谷村洋子、寺島直子、駒井万生子、岩本和行、梅田寛子、和田都子、牛山恵美子、片山純江、飯尾廣子、神阪洋子、秋田文雄、三原博子、寄川都美子、青木義雄、前田守、池田える子、村木正人								参加者数	20	
担当者コメント	山科駅から東へ歩き諸羽神社の境内を抜けると長等トンネルから出てきた疎水と出会う。ここが西へ延びる疎水の旅の出发点、紅葉狙いでの企画でしたが紅葉はまだ早く、桜やイロハモミジはまだ青い葉が多く残っていました。さぞ桜のころは綺麗だろうと思いながら歩く、護岸にはセキレイ、サギ等の鳥たちが冬支度をしているのだろうか、水辺を上流、下流へと忙しそうに飛び回っていました。御陵から西に第二トンネルへ向かう、第二トンネル手前には日本最古のコンクリート橋が架かっており、その橋を渡って登山道に入る予定でしたが登山道ははっきりしていない為、手前に引き返し永福寺から大文字山へと向かった。快適な山道を歩き大文字山へと向かう、山頂で休憩し日向井神社方面に下山し日向井神社を通り過ぎ再び疎水に合流する。そこはインクラインと言う施設跡で疎水の高低差を行き来するための施設であるらしい。インクラインから南禅寺へ向う観光客で賑やかな南禅寺通り抜け京都市動物園、聖護院蓮華蔵町を疎水とともに通り過ぎ今回の目的地白川放水口に着く。今回は市街地を歩くことが多く登山靴ではきついなと思っていましたがみなさん元気に、賑やかに歩いてくれました。又、各トンネルには洞門石額が有り第二トンネルの入り口には井上馨の石額が有りました。「仁似山悦智為水歓」仁者は知識を尊び、知者は水の流れをみて心の糧とする(論語) 記:小椋(勝)										
連番	660	例会No.	一般426	内容	燈明岳～三国山	実施年月日	2015/11/8	担当者	西村(晶)、小椋(勝)		
参加者									参加者数		
担当者コメント	雨天中止										
連番	661	例会No.	一般427	内容	六甲・鍋蓋山	実施年月日	2015/11/15	担当者	紀伊壱本(節)、西村(晶)		
参加者	紀伊壱本節雄、西村晶、飯尾廣子、寺島直子、保木道代、安本昭久、岩本和行、三原秀元								参加者数	8	
担当者コメント	七三峠を取り巻く位置は少々複雑です。以下はお気に召せばお読みください。鍋蓋山を地形的概念に捉えれば、西側は天王谷、東側は再度谷です。その鍋蓋山から南に伸びた尾根はほんのわずかな先で、平野谷西尾根と平野谷東尾根に分れています。七三峠はその手前の窪み程度のコルです。しかしこのコルから見れば天王谷と再度谷を東西に振り分けている峠であることは確かです。それにしても七三峠の謂われ何だろうかと思えます。妙にその名に哀愁があります。さらに、七三峠の真下にはトンネルがあってそれが閉鎖されているとエリヤマップには記入されています。二本松林道ではないもう1本上に敷かれた極楽谷林道というもので、これもまた奇妙な雰囲気を感じます。ついでながら、帰宅後、古いエリヤマップ(1974版)を読むと、何と七三峠の東に学校のマークがあります。此の山中にこれはまた如何なるものか、解明してみたい気がふつつ湧いてきました。およそ下界に近い山の地図ほど読みにくいものではありません。道路や地名その他の挿入物が多すぎて大きく概念が掴みにくいものです。仮に七三峠を境に東西の流域(谷)の大きさを七三と表現したものとすれば、さて何れが七で何れが三か?あるいは林道の距離から割り出したものか?あるいは山中に設置された学校?に纏わる謂われなのか、これはもう2~3回、この周辺を徘徊する楽しみに残しておきましょう。 ハイキングの愉しさの一つに、地図を片手に知らない地域、知らない領域を探っていく面白さがあります。これはハイキングのみではなく全てのスポーツ、文化、芸能に共通した面白さ喜びだと思えます。新しいページを開く読書の喜びも未知なる世界への誘いがあるからでしょう。話しが大きくなりましたが、そこに私どもの背丈にあったキーワードを探せば、それは何事にも「遊び心」を忘れぬことでしょう。「遊び心」とは余裕、怠慢の意味ではなく、一所懸命に取り組む「動機」「題材」みたいなもの、と私は思えます。「防火道を探る」愉しみを皆さんと一緒にワイワイ、ガヤガヤ大変楽しいハイキングを味わいました。近頃は「歩くこと」への効用がしきりに宣言されていますが、そこに「遊び心」が加われればさらに楽しく面白く実践できるでしょう。それを証明できるのは正に(安倍首相の口癖)EPEの皆さんの活動です。今日も存分に歩き楽しみました。 記:紀伊壱本(節)										
連番	662	例会No.	OP224	内容	小豆島・寒霞溪 星ヶ城山	実施年月日	2015/11/20~21	担当者	翁長、野原		
参加者	翁長和幸、野原勇、喜多田恵美子、牛山友幸、牛山恵美子、三原博子、和田良次、和田敬子、村木とも子、實操綾子、小川眞裕美、樺田克彦、小原武尚、安岡和子、小椋美佐、佐藤敏子、櫻井宏子、青木義雄、寄川都美子								参加者数	19	
担当者コメント	連休前夜の為か夜行便のフェリーはかなり混み合っていた。坂手港で予約していたマイクロバスに乗り、登山口の猪の谷バス停へ。ここから日本三大渓谷美の1つである寒霞溪二十景の裏八景が始まる。寒霞溪二十景とは表十二景、裏八景という名勝地である。急登が続くなか何回か奇怪な岩峰を見る。弘法大師が修業したと云われている大師洞でひと息ついた。朱塗りのお堂が洞窟の中にスッポリおさまっている。アーチ状になった石門をくぐり松茸岩までいくと島の海岸線がきれいに見えた。ロープウェイ山頂駅には車で登れる為、観光バスや車が多くとまっている。山道を登ってきた者には、何か場違いの感じがした。三笠山をへて西峰へ。西峰からの眺めは、なかなかのものである。「二十四の瞳」の分教場あたりが島のように浮かんで見える。星ヶ城山の最高点は東峰にある。頂上には石積みのトーチカのようなものがあった。その中にはお地蔵さんが何体か並んでいる。「測量用のやぐら」とあり「登るな!」の看板が目にはいった。お地蔵さんと「測量用のやぐら」とはどんな関係があるのやら。来た道をもどり三笠山でランチタイム。鷹取展望台でボランティアの人から景観について色々案内を受け、いよいよ寒霞溪・表十二景を下る。裏八景同様に奇岩、怪岩がつづく。中でも目をひいたのは錦屏風という岩の連なりである。なかなかのものである。つい「かつてのクライマー?」の目で見してしまう。今ではどこの岩場も登れないのに。寒霞溪二十景はほとんどが岩峰であった。もつとも印象深かったのは轅岳(のぼりだけ)。あたかもエイリアンの地球侵略基地のように、地上からニョキッと突き出ているのが面白かった。今回の例会は瀬戸内海にある816mの山に登る事と、寒霞溪の紅葉を期待して計画したのですが、今年の紅葉はあまりにも期待はずれでした。残念ながら暖かすぎて赤くならず枯れ葉になっていました。 記:翁長										
連番	663	例会No.	一般428	内容	六甲・芦屋川源流～白水山	実施年月日	2015/11/23	担当者	大石、板谷		

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

参加者	大石隆生、板谷佳史、小椋美佐、安本昭久、安本嘉代、江本恭子、小川眞裕美			参加者数	7					
担当者コメント	東おたふく山登山口でバスを降り、土樋割峠への道から住宅地を通り抜けて芦屋川本谷へ。水量は少ないが、昨年の豪雨によるものか荒れた感じがする。六甲の谷筋ではお馴染みの堰堤を標布と残置ロープを頼りにいくつも越えると滝ヶ谷との合流点に着く。本谷と滝ヶ谷にそれぞれ滝がかかっている、その間の岩が積み重なったルンゼから本谷の滝とその上の滝を捲き、ザイルを垂らしてさらに上部の滝を登る。まだまだ現れる堰堤を越えていくうちに熊笹の中の踏跡となり、行場らしき水場に着き早めのお昼休憩をとる。休憩後、石宝殿からトンネルができて廃道となった後鉢巻山の北側の道路を行き、白水山へと熊笹の中の道を下っていく。船坂谷への分岐を過ぎると標布を追う踏跡となり、標布を見失って立ち止まることを何回か繰り返して白水峡の上部に着く。蓬莱峡と同様の崩壊地で、足元からスパッと切れ落ちていて高度感満点。奇勝とも思える白く尖った地形を眺め、崩壊地の縁を回り込むように下ってバス停が直ぐ近くの道路へと出た。記:大石									
連番	664	例会No.	一般429	内容	室生・額井岳	実施年月日	2015/11/29	担当者	杉本(康)、大石	
参加者	杉本康夫、大石隆生、板谷佳史、岩本和行、和田敬子、和田都子、梅田寛子、小川眞裕美、寄川都美子、青木義雄、三原秀元、村木正人、村木とも子、三原博子、牛山友幸、牛山恵美子、山下登志子			参加者数	17					
担当者コメント	額井岳はその円錐形の美しい山容から大和富士と呼ばれ、天満台の住宅地からもきれいな姿を見せてくれます。山すそには、神武東征の史跡や県天然記念物もあり歴史的に興味のわくところでもあります。バス停から道標に導かれながら歩いていくと、神武帝(かむやまといわれひこ)を祭神とする十八(いそは)神社に着く。境内からは南方面は棚田から榛原の市街、伊那佐山から東吉野の山々が見渡せる。神社の鳥居前から山道になり富士と名の付く山の特徴で山頂に近づくほど傾斜もきつくなるが、1時間ほどで額井岳に到着する。山頂には雨乞いがなされたと言われる水神を祀った祠があり、その裏にひっそりと四等三角点が存在する。杉の木立の隙間からは遠く吉野、大峰の山々が望まれるが、あいにくの曇天で眺望が効かず残念です。山頂を後に急斜面を下って行くと、無線反射板の横からこれから登る戒場山が見えてくる。戒場山は木々に覆われ眺望が効かず、三等三角点を確認し戒長寺へと下る。戒長寺では高さ30mは優にある「お葉付イチョウ」の落葉で黄金の絨毯が広がり見事な景色を見せてくれています。戒長寺から今登って来た額井岳を見ながら東海自然歩道を歩くと、かたわらに山部赤人(この案内板では山辺赤人となっている)の墓があり、万葉集に数多くの秀歌を遺した偉人にしばし思いを巡らせました。記:杉本(康)									
連番	665	例会No.	一般430	内容	紀泉高原・三峰山	実施年月日	2015/12/13	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者	小椋勝久、野原勇、青木義雄、寄川都美子、村木正人、牛山恵美子、牛山友幸、片山純江、笠松マサエ、飯尾廣子、池田える子、小椋美佐、小原武尚、岩本和行、和田都子			参加者数	15					
担当者コメント	砂川駅からタクシーに分乗し紀泉わいわい村へ。わいわい村で恒例の挨拶を済まし、紅葉の名残が有る堀河谷沿いの林道を笹峠に向かって歩く。林道終点から山道に入り堀河谷に架かる橋を渡り登山道に入る。ここから1Pで笹峠。笹峠で休憩し快適な尾根道を歩くはずでしたが、倒木が多い上に松茸山の入札の後のテープや有刺鉄線を張り巡らした尾根道を歩くことに、展望もなくアップダウンの多い尾根道を歩き、いくつかのピークを過ぎ疲れたなと思うようになった頃に城ヶ峰に着く。城ヶ峰で短い休憩を取り杉木立の尾根道を三峰山へ向かう。30分ほど歩くと三峰山に到着。山頂で昼食し城ヶ峰へ引き返し犬鳴方面へ下山する。途中メンバーの体調などをみて、自然歩道コースを選択し下山、自然歩道は泉南の山にもこんな景色が見られるのかと思うような場所も有り楽しく歩くことができた。途中ショートカットをしたためにブチ藪こき、良い道ばかりではないのだと自分に言い聞かせ先を急ぐ。しばらく歩くと国道と合流し犬鳴山バス停へ向かう、予定よりも早くバス停に着きここで解散した。記:小椋(勝)									
連番	666	例会No.	OP225	内容	ラウンド滝畑ダムと年越し蕎麦(金剛蕎麦道場)+αNo. 16	実施年月日	2015/12/20	担当者	紀伊壱本(節)、西村(晶)、永井文雄	
参加者	(A)一周チーム:西村晶、板谷佳史、和田都子、安本嘉代、藤田喜久江、保木道代、和田良次、櫻井宏子、牛山恵美子、西野勇治、前田守、和田敬子、安本昭久、牛山友幸、安岡和子、飯尾廣子、小杉美代子、片山純江、小椋勝久、小椋美佐、脇本勇二、有永寛、小川眞裕美、桑田(会員外)、渡辺(会員外)・・・計25名 (B)半周チーム:紀伊壱本節雄、秋田文雄、村木正人、村木とも子、上原進一、池田える子、西村美幸、高木恵美子、實繰綾子、辻角ますみ、川崎喜美子、杉本栄子、黒澤百合子、青木義雄・・・計14名			参加者数	39					
担当者コメント	滝畑ダム湖を周遊するコースで踏み跡が続く静かな里山トレッキングルートです。塩降トンネル手前の右斜面より尾根に取り付くが足元が安定しない斜面であった。塩降峠よりは明瞭な踏み跡が続く、お天気は快晴で寒くも無くてのんびりと里山道を楽しむ。梨ノ木峠下のトンネルを通りダム湖の右岸尾根上に登ると対岸には先程歩いた尾根を望む事が出来る。露岩が出る辺りで頂上より下ってくるB班と出会う、猿の善哉で展望を楽しんだ後に下山する。滝畑レイクパークでB班と合流する、集結時間に間に合いました。七望流蕎麦道場の指南役の永井さんの蕎麦打ちを見学する。丸くなったそば生地を手で延ばした後に、麺棒1本で丸より四角に均等に延ばされて行きます、すごい匠の技です、巾1.2ミリに刻む手作業は見事でありました、永井さんも真剣勝負ですね。大きなざるに盛られた蕎麦は湯がき立てです、ツルツルと腰のある蕎麦が喉を通る、うまい、うまいの歓声上がる。本当にうまいのです、次々と運ばれて来ますがすぐに無くなってしまいます、食する私達も真剣勝負でいただきました。2016年も健康で目標を持って、楽しい仲間たちと山に登りましょう。記:西村(晶)									
連番	667	例会No.	一般431	内容	朽木・白倉岳	実施年月日	2015/12/23	担当者	板谷	
参加者	板谷佳史、神阪洋子、小杉美代子、小椋美佐、飯尾廣子、牛山恵美子、安本嘉代、保木道代、和田敬子、杉本栄子、和田都子、小川眞裕美、黒澤百合子、江本恭子			参加者数	14					

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	かつては秘境とまで言われた朽木にあって今でも静かな山が味わえる白倉連山です。残念ながら今年は期待したクリスマス寒波も無いまま年内最後の例会となりました。いつもは臨時便まで出て比良登山者でにぎわう堅田からの坊村方面行きバスだが、年の瀬と午後から雨の予報とあって皆さん敬遠したのか今日は我々EPEだけの乗車。そのバスを初めて終点まで乗って細川へ。更に40分待ちで朽木線に乗り換えて朽木村井で下車する。帰りのバスに乗り遅れることのないよう、また曇り空で展望もよくないので最小の休憩時間で登って行く。時折り樹間から安曇川を挟んで東側に蛇谷ヶ峰や釣瓶岳が霞んで見えるのが慰め。縦走路に出ると白倉連山の4つのピークを辿って行くが、風が冷たくなり、まだらながら積雪も残っており、寒々とした稜線歩きに。最後の南岳から下山に移ると本格的な雨となったが、強くなることもなくあまり濡れることもなく栃生に下り着きました。 記:板谷									
連番	668	例会No.	一般432	内容	金剛山	実施年月日	2016/1/3	担当者	西村(晶)、板谷	
参加者	西村晶、板谷佳史、小杉美代子、安本嘉代、保木道代、杉本栄子、小川眞裕美、黒澤百合子、谷村洋子、寄川都美子、前田守、櫻井宏子、山倉康次、安本昭久、笠松マサエ、永島健一							参加者数	16	
担当者コメント	登山口より黒梅谷林道を進む、山道に入る手前で小休憩、あったかいので1枚上着を脱ぐ例年なら雪が現れる所であるが今年はまったく見当たらない、年末の寒波もなくあったかい日々が続いている、セトより緩やかな尾根道沿いに頂上を目指す昨年は気温が低く霧氷の美しさに歓喜しながらの尾根道であったが今年は皆無である。国見城跡の広場で昼食にする、お天気が良いので沢山の登山者が登って来ている、半袖で登って来る子供も見受けられる、昼食後に転法輪寺に初詣、今年も安全登山を願う。 記:西村(晶)									
連番	669	例会No.	一般433	内容	新年ハイキング・和泉山脈・岩湧山	実施年月日	2016/1/10	担当者	野原、杉本(康)、板谷	
参加者	秋田文雄、磯辺秀雄、板谷佳史、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、小川眞裕美、小椋美佐、紀伊榎本節雄、紀伊榎本博美、神阪洋子、幸野光加、小杉美代子、杉本栄子、杉本康夫、高木恵美子、戸田晴子、中川由紀、永島健一、西野勇治、西村美幸、野原勇、藤田喜久江、保木道代、堀木宣夫、前田守、榊田誠寛、松田芳治、實操綾子、三原秀元、村木とも子、村木正人、安岡和子、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、山下登志子、寄川都美子、和田敬子、和田良次、和田都子							参加者数	42	
担当者コメント	ハイキング参加者は河内長野駅前から「いよやかの郷」のバス2台に分乗し四季彩館第六駐車場まで送ってもらう。本日の登山コースは最短ではあるが、最も急な「きゅうざかの道」。名称通りの急坂で階段も多く息が切れる。途中で全員が休めるような場所がなく、ダイトレとの合流点となる稜線まで休憩なし。山頂手前では10人余りの方がカヤ(ススキ)を刈っており、京都御所等に納入されるとのことでした。岩湧山山上広場で昼食休憩。休憩後樹林帯のダイトレートを滝畑へ向かい、予定時間少し前に迎えるバスが待つ滝畑登山口到着。 記:野原									
連番	670	例会No.		内容	2016年新年会・牛滝山「いよやかの郷」	実施年月日	2016/1/10	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	
参加者	青木義雄、秋田文雄、磯辺秀雄、板谷佳史、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、梅田寛子、小川眞裕美、小椋勝久、小椋美佐、翁長和幸、片山純江、紀伊榎本節雄、紀伊榎本博美、喜多田恵美子、櫻田克彦、幸野光加、小杉美代子、櫻井宏子、杉本栄子、杉本康夫、高木恵美子、戸田晴子、中川由紀、永島健一、西野勇治、西村美幸、野口秀也、野原勇、藤田喜久江、保木道代、堀木宣夫、前田守、榊田誠寛、松田芳治、實操綾子、三原秀元、村木とも子、村木正人、村本俊弘、安岡和子、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、山倉(妻)、山倉(娘)、山下登志子、横内まみね、寄川都美子、和田敬子、和田良次、和田都子							参加者数	54	
担当者コメント	「いよやかの郷」での新年会も5回目。総会までの時間を利用して、温泉でハイキングの汗を流す。午後2時30分小椋さんの司会で総会の開幕。板谷代表の挨拶に始まり、泉州山岳会榊田会長の挨拶、昨年の例会実施状況報告、会計報告、例会最多参加者3名の表彰と被表彰者各々からの受賞挨拶、新役員紹介等を行いました。新年会では板谷代表の挨拶に始まり、紀伊榎本前代表から和田さんの個展紹介、山岳会OB最古参の野口さんや同じく古参のOB村本さんらの乾杯の音頭で宴が開始。ビンゴゲームでの抽選会など、閉会まで大いに盛り上がりました。 記:野原									
連番	671	例会No.	一般434	内容	和歌山・高野三山(摩尼山、楊柳山、転軸山)	実施年月日	2016/1/17	担当者	野原、紀伊榎本(節)	
参加者	野原勇、紀伊榎本節雄、小原武尚、小川眞裕美、寄川都美子、高木恵美子、保木道代、近藤さとみ、岸田暎子、谷村洋子、前田守、青木義雄、和田敬子、藤田喜久江、池田える子、和田都子、牛山友幸、幸野光加、紀伊榎本博美、村木正人、村木とも子							参加者数	21	

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>雪の高野山を期待してこの時期に計画しましたが、今年の冬はさっぱり。稜線の北側斜面に雪が残っていたがそれも僅かで残雪と言える代物でもなかった。10:35奥の院前スタート。企業の慰霊碑等に並んで、阪神・淡路大震災の被災者慰霊碑も建立されていました。今日は阪神・淡路大震災21年目の当日。私も当時は被災地の職場に勤務していて電車が完全にストップしたため、自転車です3時間以上かけて倒壊家屋や瓦礫を避けながら出勤。午後8時過ぎには神戸市内から瓦礫を乗り越えて10時間以上歩いて出勤してきた埃まみれの職員もいました。その後24時間絶えることのないパトカー、救急車のサイレンの音を聞きながら5日間職場に泊まりこみ1日だけ帰宅、また1週間職場に泊まりこんで勤務したことを思い出しました。被災後1週間余りして職場の屋上から見た光景は決して忘れることは出来ません。多くの屋根にかかったブルーシートの海でした。今日参加されたメンバーそれぞれ山に登れる幸せを思ったのではないのでしょうか。参道を外れ林道を進み、摩尼峠を経て摩尼山で昼食休憩。休憩後尾根道を下り黒河峠からピラミッド状に尖った楊柳山頂上へ登る。楊柳山頂上からは子継地蔵まで急な下り。今回のコース上で最も注意を要する急坂だ。子継地蔵から転軸山への途中に三本杉という掲示があり寄り道をして探したが、大杉が多過ぎて特定出来ず。最後のピーク転軸山へは車道を一旦横切って20分余りの登り。転軸山を下ると線香の香りが漂う弘法大師の眠る奥の院御廟に直接出る。その後は著名な武将や大名、戦没者、企業の墓所や慰霊碑が連なる奥の院参道を通り、荻萱堂バス停へ。バス停前で解散としました。記:野原</p>									
連番	672	例会No.	一般435	内容	六甲・樫ヶ峰	実施年月日	2016/1/24	担当者	紀伊莚本(節)、板谷	
参加者	紀伊莚本節雄、板谷佳史、櫻井宏子、安本昭久、安本嘉代、小川眞裕美、岸田暎子、寄川都美子、神阪洋子、小杉美代子、寺島直子、西村晶、西村美幸、近藤さとみ、黒澤百合子、谷村洋子、山倉康次、青木義雄、三原秀元							参加者数	19	
担当者コメント	<p>今夜からは今冬最強の寒波襲来と予報されているが、例会はその前に終われそうです。逆瀬川源流を一周するコースで、途中大阪湾の展望も得られる明るい尾根歩きです。風は冷たいが日差しは暖かな中、近場の六甲で陽だまりハイキングを楽しめました。下山後、梅田のギャラリーに移動して和田さんの「山岳絵画展」を鑑賞しました。和田さんの絵画はEPEの新年会において毎年抽選会の賞品として数々寄付を頂いてきました。お持ち帰りになったラッキーな会員も多いです。今回は「関西新制作展」入賞作を含む32点の力作が展示されていました。全く素人の言としてお許し願いたいですが、改めて作者の山岳絵画に対する真摯な取り組みに敬意を表する次第です。期間中には多くの泉州山岳会およびEPE会員方とその紹介者の方々にご来訪を頂きました。また会場での受付、接待、準備、撤収等にもご協力を頂きました。ありがとうございます。記:板谷</p>									
連番	673	例会No.	一般436	内容	京都北山・雲取山	実施年月日	2016/1/31	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、西村晶、保木道代、前田守、青木義雄、板谷佳史、村木とも子、村木正人、寄川都美子、杉本栄子、神阪洋子、小川眞裕美、安本昭久、安本嘉代、江本恭子、谷村洋子、黒澤百合子							参加者数	17	
担当者コメント	<p>前日の雨で雪が無くなっていないかと気になりながら出かける。登山口の林道には多少雪があったので、稜線ではまだまだ残っていると感じた。寺山峠から一の谷へは、下りだが西面になる為か雪が多くなってきた。小沢を飛び石伝いに渡り返しながらか登る。雪が少し増えただけであるがコースが分かりづらい、何度か立ち止まり確認する。鹿の足跡は多いが人の踏み跡はない。ふと頭を上げると木々の向こうに真っ青な空があった。雲取峠に出た。広々とした雪の峠は太陽が明るく開放的で、とても気持ちが良い。寺山峠から尾根通して来た(?)と思われる人達に出会う。今日出会った唯一のパーティである。さすがに900m近くまで登ってくると雪が多く楽しくなる。小さなピークをまいて頂上へ。頂上の三角点から少し戻りランチタイムとする。風は少しあるものの日差しがこころ良い。同コースを戻りバス停へ。穏やかなスノーハイキングとなり、久しぶりに雪の感触を楽しみました。記:翁長</p>									
連番	674	例会No.	OP226	内容	赤坂山	実施年月日	2016/2/6	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、西野勇治、青木義雄、安本嘉代、小川眞裕美、小杉美代子、保木道代、小椋美佐							参加者数	9	
担当者コメント	<p>暖冬の影響で、マキノスキー場はゴルフ場かと思わせるような雪不足、去年は2m近い雪があったのにも思いながら挨拶を済ませ早々に歩き始める。雨が降ったと思えばすぐに春のような日差しと言う生憎の天気、春のような日差しの中、階段をカップを着て歩くが暑い、脱げば雨が降る。暑さを我慢しながら登っていくと所々に雪が現われ始め、東屋近くになると積雪が現われ雪が降り始める。ようやく冬模様、東屋で休憩し少ない雪を踏みしめながら登って行く、鉄塔ピーク近くになると20~30cmの雪、少ないなと思ひながら歩く雪が少ないせい、皆の話し声も弾んでいる。鉄塔ピークから5分程度で栗柄峠に着く、栗柄峠から北の方角を見れば青空の下に赤坂山が見えてくる。日差しの下稜線を歩き雪のない赤坂山に着く、しばらく景色を楽しんだ後雲行きが怪しくなってきたため、早々に下山し一気に東屋まで下降する。東屋で昼食を取りゆっくりと下山する、スキー場近くになると雨や霰が交互に降ってくる雪の代わりに鹿の糞だらけのスキー場を歩き下山した。今回はスノーシューツアーということだったので、スノーシューどころか、アイゼンもいらぬ状態でした。参加して頂いた人達にはすまないと思ひ来年リベンジしようかなと考へながら閑散としたスキー場を後にしました。記:小椋(勝)</p>									
連番	675	例会No.	一般437	内容	比叡山・坂本から大比叡	実施年月日	2016/2/7	担当者	野原、山倉	
参加者	野原勇、山倉康次、村木正人、藤田喜久江、池田える子、和田都子、近藤さとみ、寺島直子、小川眞裕美、保木道代、安岡和子、片山純江、前田守、和田敬子、寄川都美子、杉本栄子、西村晶							参加者数	17	

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>比叡山には東西南北数多くの登山コースが存在するが、比叡山の中心「根本中堂」を擁する東塔エリアに直接登り始めるコースは表参道「本坂」であろう。表参道「本坂」を登り、裏参道「雲母坂」を下る計画を立てた。因みに、延暦寺は天台宗の伝教大師(最澄)が開祖であるが、後に法然、親鸞、日蓮、道元、一遍などが修行を積み、各宗派の祖を育んだ日本仏教の母山と言われている。コースは比叡山坂本駅から西に一直線に日吉神社の赤い大鳥居を目指す。大鳥居左横の石段からスタート。1200年の歴史のある登山道と言われるが、手入れがされておらず荒廃している。スタートしてから休憩を含み2時間余りで東塔エリアに到着。さすが比叡山延暦寺、この寒い時期でも参拝客が多い。大比叡へは阿弥陀堂と東塔の間を進み、東塔の裏へ回り込んで山頂を目指す。大比叡山頂手前には朝日、関西、読売TVの中継基地が鎮座していました。大比叡山頂の三角点は一等だが、杉木立の中で見晴らしが良くない。昼食後、駐車場やスキー場跡を通過し雲母坂へ。この雲母坂は昔、延暦寺の僧兵が日吉神社の神輿を担いで都への強訴に駆け下った道でもあるとのこと。深くえぐれた山道に歴史を感じる。この雲母坂の北側は修学院の敷地、宮内庁が管理していて金網が延々と続いておりやや興ざめです。雲母坂の登山道入口から川沿いの道を進み、叡山電鉄修学院駅で解散。今日は晴れたり曇ったりあられが降ったりと複雑な天候でしたが、風がなく歩きやすい1日でした。 記:野原</p>								
連番	676	例会No.	一般438	内容	大和・貝が平山	実施年月日	2016/2/11	担当者	杉本(康)、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、小椋美佐、村木正人、村木とも子、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、片山純江、小川眞裕美、和田敬子、保木道代、谷村洋子、板谷佳史、青木義雄、飯尾廣子、野口秀也、小杉美代子							参加者数	18
担当者コメント	<p>玉立橋を渡ってすぐに橋下の道路をまで階段を下る。貝が平山への取り付きで迷ったが、登山道へ取り付く。溝状になったところを登っていくが手入れがされていないようで、数ヶ所古い倒木の下をくぐる。約1時間で貝の化石採集場に着く。岩場を想像していたが、意外とこじんまりした採集場であった。貝が平山までは全く階段がなくこのような階段がない山は珍しい。山頂で小椋さんが採集場で貝の化石をとってきたとみんなに見せて化石談議にしばし花が咲く。ハマグリぐらいの大きさに意外と簡単にとれるようだ。山頂を出てしばらくは急な下りで目の前に鳥見山の登りが見え、また汗をかくなと思っていたが、緩い登りで簡単に鳥見山に着く。ここにも三角点の標石がある。展望台まで来ると眺望は抜群で榛原市街はもちろんのこと、大和三山や金剛葛城、遠くには高見山や大峰の山並みが望まれる。絶景この上なしだ。この絶景を楽しんだ後は一路榛原駅目指して下っていく。今日は雪があると思っていたが、全くなく風は冷たいが雲はなく日差しは温かく楽しい1日でした。 記:杉本(康)</p>								
連番	677	例会No.	一般439	内容	ベーシック登山No.34 葛城山系・岩橋山	実施年月日	2016/2/14	担当者	翁長、野原
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	678	例会No.	OP227	内容	第14回スキーカーニバル・イン 北海道・キロロスキー場	実施年月日	2016/2/14~18	担当者	紀伊莚本(節)、西村(晶)
参加者	紀伊莚本節雄、西村晶、大石隆生、上原進一、和田良次、和田敬子、西村美幸、紀伊莚本博美、安本昭久、安本嘉代、寺島直子、杉本栄子、片山純江							参加者数	13
担当者コメント	<p>EPEクラブのスキーヤーの年齢は如何程だろうか。例えば今年、参加者の年齢は正確に平均65.9歳である。高いか低いかは答える人にもよるだろうが、昔を想えば驚かぬ人はないだろう。数年前のこの記事で東北、北海道のスキー場は設備は最高、ゲレンデはがら空き「高齢者スキーヤーの天国」だと書いたが、事情は徐々に変わりつつある。若者のスキー離れ(ボードも同じ)は言うまでもないが、一つは私ども同世代の活動がピークを過ぎ始めたこと。一つはスキー場の経営が枯渇し国外資本に譲渡が進んでいること。今一つ外国人スキーヤーの増えてきたことである。前々度にヒラフ花園のオーストラリア勢に驚かされたが、今回はキロロの中国人客の多さに驚いた。6年前のスキー・(カ)で泊ったマウンテンホテルはシェラトンホテルに、当時閑散としていたホテルピアニホト・ポ・ホテルに様変わりされている。いずれも満杯である。歳月は流れる水の如しとはこのことだが、あえて虚無感を装うことはない。少なくともこの変化で北海道のスキー場は当面安泰である、良しとしよう。まだまだ私共の世界は健在である。世間から怪物と呼ばれるまで。尚、キロロリゾートが中国系ファンドに買収されとの情報は間違いでした。米国スターウッドホテルに移譲されたものです。訂正します。 記:紀伊莚本(節)</p>								
連番	679	例会No.	一般440	内容	京都北山・貴船山	実施年月日	2016/2/21	担当者	大石、杉本(康)
参加者	大石隆生、杉本康夫、板谷佳史、保木道代、青木義雄、小川眞裕美、小杉美代子、寄川都美子、櫻井宏子、近藤さとみ							参加者数	10
担当者コメント	<p>ほどよく積もった雪の中を歩いたらと期待していましたが、あいにくの暖冬で残雪も無く小雪が時々かすかに舞う北山を歩く一日でした。木造で無人の二ノ瀬駅で叡電を降り、鞍馬川に架かる橋を二度渡って惟喬親王を祀る富士神社へ。この先から山道が始まる。コースのほとんど杉の植林帯の中で、夜泣峠から稜線を辿って二ノ瀬ユリ道の林道と合流し、林道が途切れて再び山道となって樋ノ水峠から貴船山の頂上へ。三角点がある頂上は冬枯れしない常緑の雑木に囲まれていて閉鎖的な感じがする。休憩したいところだが展望も無く風が通るので、樋ノ水峠の植林帯まで下ってお昼休憩をとる。休憩後は往路から二ノ瀬ユリ道を下り、富士神社の横を通過して二ノ瀬駅に戻る。 記:大石</p>								
連番	680	例会No.	一般441	内容	一徳防山~岩湧山	実施年月日	2016/2/28	担当者	西村(晶)
参加者	西村晶、前田守、小原武尚、片山純江、池田える子、安本昭久、村木とも子、村木正人、保木道代、安岡和子、小川眞裕美、谷村洋子、安本嘉代、和田良次、和田敬子、飯尾廣子							参加者数	16
担当者コメント	<p>滝畑ダム周辺の山々は、一徳防山、岩湧山、南葛城山、三国山、榎尾山等に囲まれた大きな山城です、いくつもの登山コースがあり四季を通して楽しい登山を楽しむ事が出来ます、登山地図を広げて次は何処に登ろうかと資料を探すのも楽しみのひとつです。岩湧山頂上より眼下に広がる山々を眺めながら先程、登って来たコースを探し出し遠い所から来たものだと感心しました。お天気も良く風も無く暖かくて登山日和でした。 記:西村(晶)</p>								
連番	681	例会No.	一般442	内容	丹波・三尾山	実施年月日	2016/3/6	担当者	翁長、杉本(康)

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

参加者	翁長和幸、杉本康夫、秋田文雄、青木義雄、小川眞裕美、寄川都美子、保木道代				参加者数	7				
担当者コメント	<p>雨を覚悟して家を出る。公民館手前でタクシーを降りると、なま暖かい強い風が吹いていた。田園地帯をぬけ、林道を経て山道を鏡峠へ。峠手前はつづら折りのきつい登りとなっている。峠から少し登った所でコースは分かれている。尾根通しの分水界の道を行く事にする。コース上に大きな岩がでてきた。大岩に登ってみると東峰の東南壁が見え興味をそそられる。足元には舞鶴道やタクシーで通った山村がパノラマのように見渡せる。高度感がありスッキリした処だ。しばらく行くと「覗き岩」の看板がでてきた。先程の大岩は「覗き岩」ではなかったようだ。小さな登り・下りの後、佐仲峠分岐からひと登りで三尾山頂上へ。風をさけてランチタイムとする。ここが三尾山の本峰である。三尾山とは三つのピークの総称らしい。最も標高が高いピークが三尾山の本峰であり、すぐ北のピークが西峰(または中三尾。本峰の北に位置するのに西峰とは?)、さらにその北東には東峰(前三尾)がある。村から見える急峻なピークがこの東峰である。西峰を下って東峰の谷から「やれやれ地蔵」を通り東峰へ。東峰からは南側以外一望に見渡せる。田畑を海とすれば小さな尾根や山は海のなかに浮かんでいる島のように思える。コルに戻りきつい山道を下って山岳訓練所の標識まで来た。その標識の奥にはザイルの1ピッチぶん程度の壁があった。45度ぐらいのスラブである。歩きにくい山道を下りゲートを過ぎて公民館に着いた。ここでタクシーを呼ぶ。気にしていた雨にはあわず良かった。 記:翁長</p>									
連番	682	例会No.	一般443	内容	ベーシック登山No.35 和歌山・名草山(228m) 歴史探訪シリーズNo.31	実施年月日	2016/3/13	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	小椋勝久、板谷佳史、寄川都美子、神阪洋子、保木道代、藤田喜久江、池田える子、梅田寛子、安本嘉代、寺島直子、小椋美佐、小川眞裕美、牛山友幸、中川由紀、片山純江、村木正人、青木義雄、野口秀也、安本昭久、和田都子							参加者数	20	
担当者コメント	<p>2000年前 神武東征の際 神武軍と戦った和歌山名草地方の女性首長 名草戸岬は戦いに敗れ頭、胴、足に切り離され、頭は宇賀部神社、胴は杉尾神社、足は千種神社に埋葬されたと言われている。宇賀部神社は小野田寛夫さんゆかりの神社で2000年もの間、名草の話をお口伝で伝えています。JR紀勢線 紀三井寺駅で下車し、内原神社まで街中を歩く。内原神社で休憩後、名草山へと向かう。ミカン畑の間を抜け急な坂道を上ると見晴らし台へ着く。見晴らし台からは和歌浦、沼島、遠くは四国まで見渡せられた。時間が有るので景色を堪能し頂上へと向かう、頂上も和歌山市内を一望でき桜も多く植樹されていてさぞ花見の時期はにぎやかだと思ひ、桜のつぼみを見ながら昼食を取る。時間が有るので頂上で名草伝説を話し下山する。下山道は緩やかな整備された尾根伝いの道で、所々に休憩のためのベンチもあり市民の憩いの場になっているうえ津波の時の避難場所にもなっていた。30分~40分で中言神社に着き、そこからは街中を歩き最終目的地の竈山神社に着く。竈山神社は神武天皇の兄伍瀬が埋葬されている神社でいかにとも霊験あらたかな雰囲気醸成している。神社に参り皆心改まり帰途へと着いた。 記:小椋(勝)</p>									
連番	683	例会No.	一般444	内容	大峰・扇形山	実施年月日	2016/3/19	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、青木義雄、笠松マサエ、小川眞裕美							参加者数	5	
担当者コメント	<p>下市口駅で5人乗りのタクシーは見当たらず、やむなく2台に分乗し黒滝村役場まで行ってもらう。広橋梅林の梅の里山祭は終わっていたが、それでもタクシーから見る梅林は白梅、紅梅、淡桃色などきれいに山肌を飾っている。運転手の話では、過疎化で年寄りだけの手入れも大変で梅の木も年々減っているそうです。村役場から少し歩くと河分神社に出る。宇迦之御魂神(ウカノミタマノカミ)が祀られ稲の成育を司る神として古くから信仰されているそうです。扇形山へのルートは黒滝村のハイキングコースとして紹介されているが、踏み跡が薄く分りづらい、木の橋も古く踏抜きそう。あいにくの曇天で所々にあった展望ポイントも何も見えず残念だ。扇形山からは「弘法大師の道(Kobo Trail)」の標識が現れ、洞川まで続いている。小南峠手前の地図に山名のない顕著なピーク(小南峰1196mと手作りの標識がある)から小南トンネルまで落ち葉と前夜の雨でズルズルの急傾斜をトンネル口の県道まで下る。黒滝村役場までの予定であったが5人なので洞川に降りバスを利用することにする。トンネルは冬季には通行止めになっているので車を気にしないでのんびりと洞川まで歩く。 記:杉本(康)</p>									
連番	684	例会No.	OP228	内容	敦賀・野坂岳	実施年月日	2016/3/20	担当者	板谷、村浪	
参加者	板谷佳史、村浪義光、小川眞裕美、保木道代、神阪洋子、安岡和子、村木とも子、小椋美佐							参加者数	8	
担当者コメント	<p>例年、この時期にはEPEでは数少ないテント泊の積雪期登山を続けてきましたが、今年は初心者の方にも雪山を味わっていただきたいと日帰り企画しました。期待に反して、いかに暖冬とはいえこの時期、この地域で積雪が無いとは…。地元村浪さんも「せつかく来てもらったのに」と気の毒がっていました。登山は4時間少しで終わってしまいました。せめて山頂からの展望だけでも期待しましたが、山頂付近は雲に包まれそれも叶いませんでした。雪景色が期待できる例会は今年はこれが最後でしょう、敦賀の街に下ると日が射し始めすっかり春でした。 記:板谷</p>									
連番	685	例会No.	一般445	内容	猿子城山~三国山	実施年月日	2016/3/27	担当者	西村(晶)	
参加者	西村晶、寄川都美子、保木道代、安本嘉代、小川眞裕美、片山純江、村木正人、青木義雄、安本昭久、安岡和子、板谷佳史、小原武尚、前田守、和田敬子、和田良次、飯尾廣子							参加者数	16	
担当者コメント	<p>ボテ峠に向かう雑木林に紅紫色のミツバツツジと紅色の椿が開花しており、春が近いと感じました。峠より傾斜の強くなった尾根に息を弾ませながら登ると、一座目の頂上である猿子城山にたどり着きました。主稜線に出ると道幅も広くなり緩やかな登山道となる、車道横の三国山を登り杉林の中を進むと三座目の宿山に着く、木に吊るされた表示が無ければ通り過ぎてしまう小さなピークであった。七越峠より燈明岳に続く尾根道を進む、こんもりとしたピークに畑山の表示を見つけて待望の頂上を踏む、ハイタッチで四座の完登を祝う、御光滝に向けて尾根道を下り滝畑ダムに向かう。 記:西村(晶)</p>									
連番	686	例会No.	一般446	内容	奈良・春日山原始林~若草山	実施年月日	2016/4/3	担当者	野原、翁長	
参加者	野原勇、翁長和幸、安本昭久、前田守、保木道代、西村美幸、西村晶、山下登志子、安本嘉代、寄川都美子、村木正人、小川眞裕美、秋田文雄、和田敬子、梅田寛子、和田都子、三原博子、神阪洋子、笠松							参加者数	19	

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

<p>担当者コメント</p>	<p>EPEの例会案を立てる時、いつも頭を悩ますことが山の選定。出来る限り地域的に偏りがなく、かつ過去に登られていない山は選ぶようにしているがこれが正直難しい。その中であって何故か春日山原始林を目的にした例会はない。「原始林」という謎めいた響きに興味もあり、春日山原始林に決定。春日山原始林に若草山に繋げることにした。JR奈良駅前から商店街を抜け「猿沢の池」を通り、奈良町の古い街並みを眺めながら東海自然歩道を首切り地蔵に向かう。途中で大事件発生、寄川さんが行方不明となる。他のメンバーに何時から姿を見なかったか確認するもハッキリしない。奈良駅を出発した時からではということになった。「えっ！」と驚くほかない。参加人数が多くても決してあってはならないこと。参加者の一人が携帯で連絡するが留守電で繋がらず、繋がってもすぐ切れてしまう。そうこうしている内に参加していない会員から連絡があり、首切り地蔵に車で先行したとの事。ほっとすると同時に担当リーダーとして反省しきりです。首切り地蔵で寄川さんと合流、驚いたことに神阪さんも一緒。今朝地下鉄ダイヤが乱れていて予定したJRに乗り遅れ、奈良駅で一人取り残された寄川さんを発見。一緒にタクシーに乗ってきたとのこと。小休止後ドライブウェイを通り「鶯の滝」へ。落差10mに満たない滝ですが、ゆっくり昼寝でもしたいと思った趣ある滝でもありました。滝の前で昼食休憩。春日山原始林内には桜の木が1本もない。春日大社の神山として、太古の昔から狩猟や伐採が一切禁じられていることから原始林と言われているらしい。桜の木は太古の昔には存在しなかった樹木であり、この春日山原始林に存在しないことに納得する。若草山は私も含め小学校の遠足以来50数年ぶりという参加メンバーが多かった。曇り空ではあったが古都奈良の町は勿論のこと、二上山や葛城山なども一望。若草山を後に満開の桜の木を眺めながら春日大社へ。春日大社本殿まで往復した後、バス停前で解散とした。今日は緑溢れる春日山原始林と石仏、若草山からの展望、満開の桜、馬酔木の花、春日大社での外国人観光客の群れ、若草山や奈良公園内の鹿の多さと共に、メンバーが一時行方不明になるという重大事が記憶に残った例会となった。 記:野原</p>				
<p>連番</p>	<p>687 例会No. OP229</p>	<p>内容 琵琶湖疎水から長等山 +アルファNo. 17 鰻重</p>	<p>実施年月日 2016/4/10</p>	<p>担当者 小椋(勝)、西村(晶)</p>	
<p>参加者</p>	<p>小椋勝久、西村晶、和田敬子、佐藤敏子、村木正人、村木とも子、小椋美佐、片山純江、神阪洋子、青木義雄、喜多田恵美子、馬場美穂子、小川眞裕美、黒澤百合子、保木道代、寺島直子、杉本康夫、和田都子、谷村洋子、和田良次、大森朋江</p>			<p>参加者数 21</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>山科駅から諸羽神社へ。挨拶をすませ、前回歩き始めの第二トンネル出口へ向かう。今回はここから東へと向かい琵琶湖疎水取り入れ口まで歩く。トンネル出口から諸羽公園をトンネル沿いに歩き第二トンネル入り口へ向かう、第二トンネル入り口、ここからが今回目的の疎水。先日の風雨で散り始めたが、まだまだ見応えが有る桜並木とともに疎水沿を歩く。しばらく歩くと第一トンネル出口へ着く、ここからは旧街道(北陸道でほぼ疎水の真上)を歩き小関峠へ向かう。小関峠は 中仙道、東海道の逢坂の関を大関と呼ぶのに対し裏道の街道の関を小関と呼んだことから小関峠と言われる。芭蕉もここを通り俳句を詠んでいる。小関峠から山道に入り長等山に向かう、長等山は国土地理院の354. 1mの長等山とハイカーたちが名付けた長等山370. 1mが有り今回どちらも登った。長等山を下山し三井寺に入る。ここも桜の名所で多くの人でにぎわっていた。三井寺を抜けると第一トンネルの入り口と出会う、ここから最終目的地の取り入れ口まで桜を楽しみながら歩く、取り入れ口に到着後浜大津まで歩く。浜大津から電車に乗り最終目的地のうなぎさんし井のかねよに到着。座敷に案内され鰻重を食べるとみなさん笑顔になり笑い声が途切れませんでした。 記:小椋(勝)</p>				
<p>連番</p>	<p>688 例会No. 一般447</p>	<p>内容 比叡滋賀越え・將軍山～坂本</p>	<p>実施年月日 2016/4/16</p>	<p>担当者 大石、板谷</p>	
<p>参加者</p>	<p>大石隆生、板谷佳史、安岡和子、西村美幸、西村晶、岸田暎子、寄川都美子、保木道代、紀伊塾本博美、青木義雄、江本恭子、横山寿夫、安本昭久、安本嘉代、小川眞裕美</p>			<p>参加者数 15</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>叡電を降りて市街地を通り抜けて行くと、宮本武蔵ゆかりの松があった場所や石川丈山が隠棲した詩仙堂の案内板が。寄り道をしたところだが、これから山越えをして売切れ閉店となる前に坂本のお蕎麦屋さんに着きたいので次の機会に。参道から懸造りの狸谷山不動院へ。ここが登山口。植林帯から雑木林となる山道を瓜生山に登り、無動寺川への下降点へ。その途中、目の前にゼッケンを付けたトレイルランナーの列が現れた。聞けば、今日は京都一周トレイルランの春・東山コースの開催日で、山科から大文字山、比叡山を経て大原と鞍馬の間にある静原までの32キロを走るとのこと。「道空けて」、「右に寄って」等と後方から声が聞こえるたびに立ち止り、追いついてきたランナーをかわすことになる。おちおち歩いていられない。しかし、それも下降点まで。ここでトレイルランのコースから外れるので後ろを気にする必要もなくなり、ホッとする。無動寺川へ下り、少し遡行して比叡アルプスに続く尾根へと登り返す。登るにつれて三葉躑躅が現れ、満開の躑躅に加え山桜や新緑を楽しみながら比叡アルプスを辿るうちに一本杉がある駐車場に到着。駐車場で南東方向に琵琶湖の大津港や近江大橋、南西方向に京都市街を眺めた後、等高線を辿る水平歩道のような山道を回峰行の拠点となる明王堂等がある無動寺谷へ。作務衣の修行僧らしき方お2人、売店の女性、それに吠えられた犬2匹以外に見かけるものも無く、静まり返っている。参道を下り、再び杉の植林帯の山道となってどんどん下っていき、林道から車道に出て坂本へ。日吉神社の赤鳥居を左手に見て鶴喜そば本店に着き、ここで解散。皆さんお疲れ様でした。直帰組を見送った後、お蕎麦組が角の立ったコシのあるお蕎麦を美味しくいただいたのは言うまでもありません。 記:大石</p>				
<p>連番</p>	<p>689 例会No. OP230</p>	<p>内容 高島トレイル-5・根来坂～三国峠～三国岳</p>	<p>実施年月日 2016/4/23～24</p>	<p>担当者 板谷、村浪</p>	
<p>参加者</p>	<p>板谷佳史、村浪義光、保木道代、小川眞裕美、安岡和子、安本嘉代、小椋美佐、江本恭子、山倉康次</p>			<p>参加者数 9</p>	
<p>担当者コメント</p>	<p>4/23 マイカー三台が参加できるようになったので、予定したタクシー、バスは使わずに済む。下山口である桑原橋に車一台をデポして、小入谷林道に向かう。念を入れて前回の最終地根来坂を踏んでおいたうえで、おにゅう峠からの縦走路へ入る。心配した雨も行動中は降ることが無く、足元のイワカガミやイワウチワ、そして新緑を楽しみながら縦走路を歩くことができた。テントでは明日の完走の前祝いをして過ごした。夜からかなりの雨となるが、夜半過ぎからは止んだのでよかった。4/24夜中のかかなり強い雨も明け方までには止んで清々しい朝を迎えた。天気心配も無用で、今日もイワウチワやシャクナゲを愛でながら杉やブナの巨木が多い尾根の縦走が続く。明るい笹原を抜けると高島トレイル最終ピークの三国岳に立った。更に1. 5時間程の下降で終着点の桑原橋に降り立つ。全長80Kmを1年半5回に分け合計9日を要した縦走が完成した。たいした記録でもないが、無事完走してEPEのレベルなりの達成感を感じつつ帰路につきました。 記:板谷</p>				
<p>連番</p>	<p>690 例会No. 一般448</p>	<p>内容 燈明岳～三国山</p>	<p>実施年月日 2016/4/24</p>	<p>担当者 西村(晶)</p>	

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

参加者	西村晶、寄川都美子、片山純江、村木正人、青木義雄、安本昭久、神阪洋子、和田敬子、飯尾廣子、池田える子、和田都子	参加者数	11
担当者コメント	前日の雨のおかげで木々の新緑が柔らかく感じる山並みを眺めながら滝畑バス停で出発の準備を行いました。四座を登るのであまりゆっくりすると帰りのバスに乗り遅れるので早々に歩きだす。中ノ茶屋橋で小休憩、橋の標高が320mここより傾斜が強い尾根道となり標高600mあたりで緩やかくなる。280mの登りに息を弾ませながらがんばる。稜線の道に出ると杉の伐採を行っており、ぬかるんだ道に足を取られながら燈明岳に向かう。神野山、畑山を登り三国山に直接登る尾根道をたどり道路に出ると紅紫色のミツバツツジに迎えられました。四座目の三国山に登り急いで下山を始めたのですが林道の距離が長くて予定していたバスの時間が危うくなったので林道を走りましたがやっぱり間に合わなかったです、この距離を走れるのならまだまだ山登りは大丈夫と感じました。 記:西村(晶)		
連番	691 例会No. 一般449 内容 福井・岩籠山	実施年月日	2016/4/29
担当者	板谷、山倉	参加者数	9
参加者	板谷佳史、山倉康次、小椋美佐、保木道代、神阪洋子、安岡和子、小川眞裕美、青木義雄、前田守	参加者数	9
担当者コメント	市橋からの登山道は頂上稜線に出るまで終始沢沿いで、何度も飛び石で渡渉して行く。適度に変化があって小さな滝の眺めなどもあり退屈しないコースとなっている。今日は雨の心配は無さそうだが、冷たい北の風が強い天気で休憩も早々に切り上げながら登って行く。福井の天気予報は良くなかったからか、GW連休初日にもかかわらず他の登山者の姿は皆無。強風の山頂に立ち360度の展望を眺めた。時々日が照るのだが寒いので早々にインディアン平原と呼ばれている大岩が点在する笹原へと向かう。こちらは風の陰となっていて暖かいので岩の上からゆっくり野坂岳、西方ヶ岳を始めとした福井の山々、湖北や高島の山々等と例会で訪れた懐かしい展望を楽しむ。敦賀湾の全貌もはっきり見えて美しい。後半はしばらく主稜線を南下した後、東への尾根を急下降して駄口登山口に降りる。駄口からは予定のタクシーは呼ばずに国道161を20分ほど歩いてJR新疋田駅に出て例会終了解散としました。 記:板谷		
連番	692 例会No. 一般450 内容 曾爾高原・兜岳鎧岳	実施年月日	2016/5/5
担当者	翁長、大石	参加者数	11
参加者	翁長和幸、大石隆生、保木道代、青木義雄、寄川都美子、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、佐藤敏子、小杉美代子	参加者数	11
担当者コメント	鎧岳とは、柱状節理の岸壁が鎧(よろい)の胴のように見えるので鎧岳。天を突き刺すようにとがった姿を見ると、いかにも「一度は登ってみたいくなる」という山なのです。その南西にある兜岳とセットにして登ろうと出かけた。どちらも武具の名前が付けられているのが面白い。名張よりタクシーで目無橋下車。3台の車が止まっていた。新緑まっさかりである。ここから5分ほどで登山口の目無地蔵へ。しばらく行くとロープの張りめぐらされた急な岩道が始まった。きつい登りであるが、今日は風が強く汗は出ない。空気が乾いているのか気持ちのよい登山日和である。兜岳の頂上からは曾爾高原側に少し切り開きがあり?留尊山からお亀池、古光山と良く見える。足元には青蓮寺川にそうように細長い集落が見てとれる。牧歌的なローケーションを眺めながら、ここで昼食とする。頂上からは急降下で峰坂峠へ。兜岳の登山道は登りも下りも急傾斜の道である。峠からはひと登りで鎧岳につく。バス道から鎧岳を見ると、かなり急角度でせり上がるスカイラインであるが、登ってみるとそれ程ではない。コースは西によっているからか?下山は新宅本店方面にとる。植林帯のジグザグ道を太良路バス停へ向かうが、バス道に出たところで本数の少ないバスに追い越された。残念ながらタクシーを呼ぶことになってしまった。兜岳のズングリ型と鎧岳の急峻な峰とは対照的な形で、一対としてみると一幅の絵になるようだ。この二つの山は登るより眺めるほうが楽しそうな気がする。 記:翁長		
連番	693 例会No. 一般451 内容 湖南・音羽山~千頭岳	実施年月日	2016/5/8
担当者	杉本(康)、小椋(勝)	参加者数	16
参加者	杉本康夫、小椋勝久、青木義雄、安本嘉代、小椋美佐、小川眞裕美、秋田文雄、板谷佳史、和田敬子、和田都子、梅田寛子、神阪洋子、寄川都美子、岸田暎子、横山寿夫、安本昭久	参加者数	16
担当者コメント	醍醐寺といえば豊臣秀吉の「醍醐の花見」が催された寺としても知られ、秀吉はこの花見のために、吉野をはじめ近畿各地から700本もの桜を集めて境内に移植させたそうです。満開のころにはさぞかし見事であろうと思ひながら、醍醐寺を後に長尾天満宮から山道に入る。高塚山までは枝道が多くこの山に行く人が多いのだらうと思われる。鶯やブッポウソウの鳴き声が聞こえ鳥の声でも春を感じさせられる。高塚山から牛尾観音までは大雨の影響と思われるが道が荒れていて歩きにくく分りにくい。音羽山からは京都方面の展望が素晴らしく北は比叡山から、南はこれから行く千頭岳方面も見渡せる。千頭岳の山頂は西と東があり東千頭岳は縦走路にあり、西千頭岳は縦走路より外れているが標高が東より高く三角点があるので確認しに行く。三角点は交差した送電線2本のそれぞれの鉄塔の柵に囲まれ、つつましく存在している。東千頭岳まで戻るとあとは石山寺までの下りだがアップダウンがあり意外と時間がかかる。途中でモトクロスのタイヤの跡があり、自然を破壊するような行為はやめてほしいなど楽しい気分も一度に吹き飛んでしまう。町中に入って暫く歩くと刑務所が現れ「3食付きでこんな所に入りたくないな~」の声。石山寺の門前のバス停で長時間の歩行お疲れさまでしたと解散しバスに乗る。 記:杉本(康)		
連番	694 例会No. 一般452 内容 権現山~岩湧山	実施年月日	2016/5/15
担当者	西村(晶)、板谷	参加者数	16
参加者	西村晶、板谷佳史、寄川都美子、村木正人、青木義雄、安本昭久、安本嘉代、小椋美佐、保木道代、和田敬子、飯尾廣子、和田都子、佐藤敏子、小川眞裕美、小原武尚、和田良次	参加者数	16
担当者コメント	滝畑ダム周辺の例会山行を2015年2月から6回行いました、14座の頂上に登る事が出来ました。私が初めて登った頂上も8座もありました。山と高原地図には山名が表示されているのだが場所が分からずに山頂の山名標識を探すのに苦労した事も数度ありましたが、探し出した頂上に立てた時はうれしく感じました。初めて登るルートでは事前調査山行をおこなったり、国土地理院発行の地図(1/25000)より概念を調べ起伏の高低差、尾根の屈曲場所等など、ルートのポイントを調べる事もまた楽しい事です。今回で滝畑ダム周辺の山城はひとまず終了して、次回より滝畑ダムの東面方向の金剛山地方面の山に登ります。 記:西村(晶)		
連番	695 例会No. OP231 内容 北摂・天王山周辺読図講習会	実施年月日	2016/5/22
担当者	野原、小椋(勝)	参加者数	26
参加者	野原勇、小椋勝久、片山純江、大森朋江、梅田寛子、和田敬子、西村美幸、小川眞裕美、寄川都美子、磯辺秀雄、前田守、青木義雄、神阪洋子、板谷佳史、小椋美佐、近藤さとみ、村木正人、村木とも子、保木道代、黒澤百合子、谷村洋子、藤田喜久江、紀伊整本博美、佐藤敏子、江本恭子、安本嘉代	参加者数	26

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>読図・・・登山する者にとって一筋縄ではではない永遠の課題。メンバーの読図能力向上はリーダーたる者の責務と考え企画しました。今日の講習は、JR山崎駅から歩測による距離把握に始まり、座学講習は「大山崎ふるさとセンター」の会議室を借り上げ、地形図の基礎、磁北線の引き方、コンパスの持ち方、正置、現在地確認、先読み、ルート維持、進行方向の決定、道迷いへの対処方法、計画段階で使えるパソコンのサイト紹介等ひととおりの座学講習をしました。午後からは設定したコースを歩いてもらう実践講習をA～Eグループに分け実施。まずは講習会場からサントリー山崎工場奥の椎尾神社まで歩測による距離把握体験。今回のような起伏のないコースなら予測との誤差は5%以下にまで持っていきけるはず。そのためにはまず各自100mの歩数をしっかり把握したうえで、歩幅を一定にすることに務めてください。見ていますと一歩一歩の歩幅がバラバラの方が見られました。歩幅がバラバラではまともな距離把握ができるはずがありません。山道に入るとコースは谷沿いなのに尾根に上がろうとしたり、標識に惑わされたり、それらしき登山道が数本ある場合のコース選択方法、先読みをまったくやっていない、また現在地を間違えるなど読図に苦しむグループもありました。間違った方向に進んでも、リーダーとして注意をせず一緒にしばらくは進みました。少人数なら気づくまで1時間でも間違った道を進むつもりですが、今日のような多人数ではそれも出来ません。意地悪ではなく読図に苦しむこと、コースを間違えることもすべて必要な体験。その失敗体験が多いほど読図能力アップに繋がります。今回の読図講習を無駄にせず、少しでも今後の例会に活かすようにしてください。地形図をじっくりと読んだ回数だけ必ず上達します。読図上達に近道などありません。 記:野原</p>									
連番	696	例会No.	一般453	内容 湖北・妙理岳	実施年月日	2016/5/29	担当者	杉本(康)、板谷		
参加者	杉本康夫、板谷佳史、小川眞裕美、寄川都美子、梅田寛子、和田都子、近藤さとみ、和田敬子、駒井万生子、保木道代、黒澤百合子、杉本栄子、谷村洋子							参加者数	13	
担当者コメント	<p>バス停から六所神社の方に向かうと妙理川に掛かる赤い立派な妙理橋が見えてくる。橋を渡って鳥居をくぐると、手入れの行き届いた立派な拝殿が拝まれる。六所神社には、昔、丹生川に大蛇が住んで害をなしたが、六所神社に祈りを捧げると、熊野山の山伏と名乗る6人がやって来て大蛇を退治したという伝説が残る。登山道は拝殿の裏手から掘り割りの急登が続く。落ち葉でフカフカしているが滑って歩きにくい。30分ほどで急登も終わり緩やかな尾根歩きとなる。コース中全てにブナの美林が続く、今の時期ならではの新緑が美しく目に優しい。吹く風も汗ばむ体には心地よい。余呉トレイルとしてルートが開かれているが、東妙理山まではいたる所に倒木がありまるで障害物競争だ。道の真ん中には落ち葉の間からギンリョウソウが堂々と顔を出している。妙理山までは緩やかなアップダウンが続くブナの木で展望がよくないが、なぜか気持ちが安らぐ。山頂には三角点と余呉トレイルクラブの丸い手書きの山名板があるだけでルート案内の標識はない。整備されすぎていないルートもまた気分の良いもので、それだけに静かな山行を楽しめるところでもあります。椿坂の集落が見えた頃に小雨が降り出すが、まずまずの天気で楽しい一日でした。 記:杉本(康)</p>									
連番	697	例会No.	一般454	内容 裏六甲・水晶山～古寺山	実施年月日	2016/6/4	担当者	紀伊栞本(節)、杉本(康)		
参加者	紀伊栞本節雄、杉本康夫、近藤さとみ、佐藤敏子、和田敬子、杉本栄子、藤田喜久江、小杉美代子、大森朋江、小川眞裕美、岸田暎子、寄川都美子、保木道代、板谷佳史、谷村洋子、紀伊栞本博美、横山寿夫、翁長和幸							参加者数	18	
担当者コメント	<p>裏六甲という呼び名は失礼かもしれませんが、表六甲に比べるとたしかに地味で閑疎な趣があります。しかし、それがまた好ましいと思われているのもたしかです。事実、裏六甲の山道は静かで落ち着いたプロムナードです。さて、今回は一捻りして裏六甲から裏六甲へ、六甲山台地を敬遠するプランとしました。御存じの通り六甲山台地は明治以来、神戸に住む外国人達が先駆けて開発した別荘地です。なかには創立100年を超える日本最古の由緒あるゴルフ場もあります。思うに、このリゾート地を通過し表六甲に出るか出ないかは登山者の選択次第、通例に沿うことはないわけです。水晶山を経て、その先のダイヤモンドポイント(六甲山台地の北の突端)まで同じ一筋の尾根続きです。登山路はここまでが裏六甲の範囲です。あとは台地の北端を通るノースロードからシュラインロードへと移動しました。ハイカラなカナ文字の道標を横目に「シュラインとはいったい別荘住まいの外国人の名前か?」と、知らぬ同士の権兵衛さんの会話でした。ところが実は、シュラインとは英語で神社に相当するようで、そう云えばこの道には小さな石仏が点々と並んでいました。もとは唐櫃と御影を結ぶ六甲越えの古い路で、道祖神とした石仏を見た外国人がシュラインロード(神社の道)と名付けたそうです。古寺山はシュラインロードから外れて、尾根道を一汗登り返した山頂です。唐櫃の多聞寺は元この山頂にあって、約800年前の源平合戦で焼き払われたそうです。山頂の手前には大きな塔頭もあったであろう平ら地が見えました。しかし残念ながら、その他の痕跡は探す余裕はありませんでした。ただ、源平時代に想い馳せる私はひとりで興奮しました。福原遷都を企てた平清盛が、福原(神戸)から鬼門の方角にあたるこの多聞寺を、京の都から同じ鬼門にあたる鞍馬寺に擬らえて、大きな援助を与えたと云われています。確かにこの山頂は有馬街道の要害地として戦略的にも最適な位置にあります。「清盛の涼み岩」と名札の掛かる石に座ってみました。樹木を払えば有馬街道は正に眼下にあります。「今日は思わぬ拾いものをしたぞ!」とまたひとしきり興奮しました。神鉄六甲駅まで下って、ついでながら江戸期に再建された現在の多聞寺に参拝しました。200段以上はあろう石段を喘ぎながら上ると、閑疎な寺社が一つ時代に取り残されたように佇んでいました。帰り路のことです。大阪に近づいた電車の席で「今日はどこか遠いところから帰ってきたような気がする」と同行の一人が呟いていました。同感です。裏六甲とはそれだけ遠くて近い味わいのある山だと思います。 記:紀伊栞本(節)</p>									
連番	698	例会No.	一般455	内容 書写山 歴史探訪シリーズ No.32	実施年月日	2016/6/12	担当者	小椋(勝)、山倉		
参加者	小椋勝久、山倉康次、安本嘉代、黒澤百合子、神阪洋子、駒井万生子、保木道代、小川眞裕美、安本昭久、秋田文雄							参加者数	10	

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント
 昼からは雨の予報。JR姫路駅から大修理を終えた姫路城を眺めながら書写バス停へ。書写バス停で挨拶を済ませ東坂参道を登り始める。東坂参道は岩盤がロープウェー山上駅近くまで続く、その岩盤の坂道を汗をかきながら登っていくと展望台が現われる。展望台から姫路市を眺めながら休憩。展望台から少し歩くと山上駅へ着く。山上駅を過ぎると料金所が現われる。ぶつぶつ言いながら500円を払い圓教寺の境内へ入る。山門を通り摩尼殿へ向かう、階段を上を見ると見事なまでの「ときょう(斗組)」が人の目を引く、せっかく来たしお金も払っているので拝観する。秋の紅葉は素晴らしいだろうなど考える。摩尼殿から白山権現へ、ここが所謂、書写山(371m)らしい(諸説あり)。ここで昼食をし 349.8mの三角点へ向かう。三つのお堂、奥ノ院を通り鯉尾坂参道(ねんびさか)へ向かう。あまり人が通らないのか取り付きがわからない、やっとな鯉尾坂参道を見つけ歩き始める。書写山三角点から下山道へ、始めは広い道で右側には石垣が点在し瓦の破片も多くありその昔には僧坊がたくさん建ち並んでいたのたろうなどと考えながら下山する。しばらくシダの生い茂った登山道を歩くと新在家の集落へ着く。ここからバス停までは10分程。バスの時刻が迫っていたので早々に引き揚げバス停へ向かう。余談ですがダニが多かった 次の日にダニが2匹も足にかみついていた。医者に行き除去してもらい、訳の分からないまま検査などをしてもらうと数万円、あの小さなダニでこんなことになるなんて。トホホ 記:小椋(勝)

連番	699	例会No.	一般456	内容	六甲・逢山峡～記念碑台	実施年月日	2016/6/19	担当者	大石、杉本(康)
参加者	大石隆生、杉本康夫、寄川都美子、小川眞裕美、黒澤百合子、谷村洋子							参加者数	6
担当者コメント	雨でした。歩き始めからお昼をとくに過ぎる頃まで傘のお世話になりました。でも、晴れた日とは違い雨の山には風情があるものです。雨に濡れても苦にならないこの時期、それなりに心と装備の準備をして歩いていると、しっとりと濡れた花や木々の葉、目の前をよぎる霧など雨の日ならではの新たなものがありました。有馬口駅で雨支度を整え、東側の改札口から民家の間の農道らしき道を専念寺へ。着いてみると本堂と地藏堂だけのお寺、見るものも無いので早々に逢山峡へ。東山橋に着き流れを見ると、2パーティほどが入谷の準備中。昨年今頃にEPEのメンバーも例会で入谷しており、あのような様子であったかと想像してみる。きれいな流れに見えるが源流部に別荘等があるので、沢登りとなるとそうではないとのこと。雨で増水しているから、そう見えるだけのことか。穏やかな流れにそった林道を進み、猪ノ鼻滝を覗き込んでから逢山峡を離れシュラインロードへの分岐点へ。下草が茂った中に続く登山道を見て、「エッ、こんな道を行くの。」という参加者の表情に予定変更。少し遠回りになるけれども林道を更に進み、雨で通る車がほとんどないドライブウェイを歩いてシュラインロードの取付点へ。シュラインロードの名の謂れとなった石仏を数えながら登っていくが丁石のように等間隔ではなく、近くにあったり離れていたり、中には振り向かないと気付かないような窪みに祀られているのもあって、「これで12体目」、「いや、13体目」とカウントがだんだん怪しくなる。そのうちに雨宿りができる行者堂に着きお昼休憩。ここからは傾斜が落ち、石仏を2体ほど数えると別荘地の道路に出る。ダイヤモンドポイント方面への分岐を過ぎ、別荘地の北側を回り込むノースロードに入り記念碑台へ。数台の車が止まっているだけで人影もまばら。そりゃそうでしょう、雨ですから。雨が止んだドライブウェイを歩き六甲ケーブルの山上駅に着き、その先から油コブシへと下る。夕方のように薄暗い雑木林の中の道をどンドン下り、ケーブルの下駅からバスで阪急六甲駅に出て例会を終了した。 記:大石								

連番	700	例会No.	一般457	内容	紀泉高原・俎石山、雲山峰	実施年月日	2016/6/26	担当者	翁長、小椋(勝)
参加者	翁長和幸、小椋勝久、保木道代、杉本栄子、佐藤敏子、和田良次、和田敬子、和田都子、村木正人、村木とも子、小椋美佐、小川眞裕美、大森朋江、西村晶、西村美幸、飯尾廣子、梅田寛子、藤田喜久江、馬場美穂子、板谷佳史、上田俊之							参加者数	21
担当者コメント	箱作駅より国道26号線を和歌山方面へ。「箱の浦」の信号を左折、このあたりから俎石山がよく見える。林道が大河内池の横をとおり奥へと続く。林道がカーブしている所に細い木橋がかかっている。この木橋がコースの出発点になる。稜線の400mぐらい手前で予定コース以外の所に、真新しいトラロープがフィックスされていた。踏み跡がしっかりしていたので行ってみることにする。途中で踏み跡が消え、枝をつかんで登るような急な所が出てきた。右上にトラバース気味に登り尾根道にでる。今登ってきたコースは、最近のハイキング・マップには記載されているようだが、標布や案内板がほとんどなく山慣れしていない人は、少々迷うかもしれない。ここから俎石山はすぐである。北展望台でランチタイムとした。大阪湾やスカイタウンが一望出来る。これより鳥取池上流まで240m下降し、雲山峰へ300mほど登り返すことになる。頂上には小さな石の祠に八大竜王が祭られている。この山に「雲がかかれば雨になる」と云ういわれを何かの本で読んだような気がする。水に関係のある山なのだ。ここから最短のコースで鳥取池のダムサイトに下るのだが、沢底まではかなり急な階段道が続く。200m以上いっきに下るのだ。ダムサイトからは最後の登りが待っている。北に見える尾根を越え、飯の峯川にかかるナメ滝(50mはゆうに超える)を見下ろしながら桃の木台3丁目バスへ。17:32発のバスに乗り18時前に箱作駅に到着。俎石山から雲山峰への尾根コースは、EPEでは何度かトレースしている。同じ所を行っても興味が半減する。「あまり人に会わないコース」ということで、「登っては下り、登り返しては又下る」を3回繰り返すコース設定をした。コース途中で出会ったハイカーは一人だけであった。このような「お疲れさんコース」に、参加してくれた皆さんには大変感謝いたしております。ご苦労様でした。 記:翁長								

連番	701	例会No.	一般458	内容	丹波・虚空蔵山とビール工場見学	実施年月日	2016/7/3	担当者	野原、大石
参加者	野原勇、大石隆生、翁長和幸、三原秀元、小原武尚、横山寿夫、西村美幸、寄川都美子、青木義雄、小川眞裕美、佐藤敏子、寺島直子、保木道代、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、谷村洋子、井倉和代							参加者数	18

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>近畿地方にあるビール工場といえばサントリー京都ビール工場、アサヒビール吹田工場、キリンビール神戸工場、キリンビール滋賀工場の4か所。昨年まではサントリー京都ビール工場とアサヒビール吹田工場を交互に見学してきたが新鮮味が欠けるため、今回は虚空蔵山に登頂後キリンビール神戸工場を初めて訪れることとしました。虚空蔵山に至るコースは虚空蔵堂への参詣道でもあり、かつ近畿自然歩道にも指定されているため道標も登山道もよく整備され、また登山口からは樹林帯の中の登山道となるので直射日光に曝されることもなく歩きやすい。虚空蔵堂へは急な石段を登り詰めると本堂が現れる。この虚空蔵堂は聖徳太子の建立、最盛時には七堂伽藍を擁していたとのことですがその後荒廃、天正3年(1575年)に再興。その4年後天正7年明智光秀の「丹波攻め」によって炎上、村人の協力で再興した。その後豊臣時代の寺領没収や明治初期の廃仏毀釈などで荒れ果てるも、また再興され現在の姿に。時代に翻弄され続けた歴史を持つお堂です。休憩後、お堂の右裏から続く登山道に入る。一気に高度を上げる急登で暑さに慣れていない体にはやや応える登りでした。テスト参加者1名が体調を崩し、翁長さんサポートで引き返す。虚空蔵山山頂は岩が積み重なったような頂上で、一角にベンチとテーブルが設置されていました。昼食後、立杭陶の郷に向け下山開始。プラスチックの階段が延々と続く急斜面で、こんな階段の道は登りには使いたくないと考えながら下り続け立杭陶の郷へ。立杭陶の郷到着後、バスと電車を乗り継ぎ、三田駅前から専用バスに乗ってキリンビール神戸工場へ。施設見学を40分程度受ける。巨大なタンクを見てメンバーの1人が一生かけても飲みきれないと話していましたが、とんでもない。タンク1基に入っている量を1人で1日1缶として、飲み干すには3,500年もかかるということです。施設見学後、お待ちかねの試飲タイム。お勧め銘柄は一番搾り神戸づくり、一番搾りスタウト(黒ビール)、ラガー、ハートランド「樽生」。美味しいビールを十分に楽しんだ後、缶ビールを模した送迎バスの前で解散。暑い中、お疲れ様でした。 記:野原</p>				
連番	702 例会No.	一般459	内容 不動山~行者杉	実施年月日 2016/7/10	担当者 小椋(勝)、杉本(康)
参加者	小椋勝久、杉本康夫、寄川都美子、村木正人、青木義雄、安本昭久、安本嘉代、三原秀元、江本恭子、安岡和子、板谷佳史、大森朋江				参加者数 12
担当者コメント	<p>南海林間田園都市駅 からタクシーに分乗し杉尾の集落へ 細い村中の曲がりくねった道を上がっていくとトイレを完備した駐車場が有りそこで挨拶と準備を済ませ登山道へ向かう。駐車場の横には明王子が有り 集会所は杉尾地区の投票所になっていて村の人たちが集まっています。投票率100%かなと考えながら歩いて行くと 不動岩へと向かう急な階段が目の前に現れ、暑い上にこの階段かと思いつきながら登り始めるとやはりキツイ、汗を掻きながら登り終わると巨石群が現れる。そこには楠正成公が腰を掛けた石と休憩所が有りそこで一休み。巨石群の石には25cmほどの穴が開いておりそこに耳をあてると地獄の音が聞こえると言われています。日本の音風景百選にも選ばれているらしく不思議な音を聞くため 皆さん耳をあてていましたが聞こえたでしょうか? 巨石群をすぎて不動山へ、ここからは登山者もいないのか、蜘蛛の巣がやたらと顔に絡み付いてくる景色なく風通しの悪い登山道を登りきるとダイヤモンドトレールに出る。そこから東へ歩くと行者杉に着く。行者杉で休憩をし、紀見峠へ向かうここからはのぼりらしい登りもなく風通しの良い快適な尾根道を下っていく。山ノ神で地元の人から紀見峠駅に向かう登山道はマムシが多いので林道を通る方が良く、あまりにも熱心に話すのでダイヤモンドトレールのコースを採用し駅に向かった。さすがに山里に出ると暑い、紀見荘に着くが温泉の受付時間が過ぎていたので駅に向かう14:00前に駅に着きそこで解散をしました。 記:小椋(勝)</p>				
連番	703 例会No.	一般460	内容 比良・鶴川左俣廻行	実施年月日 2016/7/17	担当者 板谷、山倉
参加者	板谷佳史、山倉康次、小椋美佐、安岡和子、江本恭子				参加者数 5
担当者コメント	<p>北小松駅から国道を歩く時は雨であったが、入谷地点に着く頃には止んでいた。二俣までは平凡だが水量が多くそのぶん通過に手間はかかる。谷の上まで樹林が覆うように迫っており、雨後ということもあり蜘蛛の巣がひどい。先頭は蜘蛛の巣払いが仕事となる。二俣から左俣に入る、目立った滝があるわけでもないのでもどどん進んで行ける。10m程の滝一カ所だけ、念のためロープを使った。上部の二俣に出てどちらへ行くか迷ったすえ左をとったのが間違いで予定外の急斜面を這い登ることになってしまう。登り切って踏み跡のある尾根を辿ると滝山登山道の途中に出た。目指した終了地点とはかなり離れてしまったが、やむを得ずそのまま滝山登山道を北小松に向け下降することになった。初心者レベルの沢と安易に判断して予定のコースを辿ることができなかったのはリーダーの判断ミスでありました。帰った翌日には近畿に梅雨明け宣言が出され、本格的な夏が来ました。帰宅後ダニの被害者一名、報告有り。 記:板谷</p>				
連番	704 例会No.	一般461	内容 大峰・佛が峰~白倉山	実施年月日 2016/7/24	担当者 杉本(康)、翁長
参加者	杉本康夫、翁長和幸、板谷佳史、神阪洋子、寄川都美子、青木義雄、大森朋江、佐藤敏子、藤田喜久江、馬場美穂子、梅田寛子、和田都子、野口秀也				参加者数 13
担当者コメント	<p>雄略天皇が狩りに訪れた際、トンボのいわれからこの地を蜻蛉野(あきつ)と呼ばれ滝を蜻蛉(せいらい)の滝と呼ばれたようです。その後も天武天皇や、宮人たちも多くこの地を訪れたことが万葉集にも記述があるようで、松尾芭蕉や本居宣長もこの地を訪れたと言われています。滝は50mの2段で岩壁の黒さと水しぶきの対比が美しく天気の良い日には滝壺に虹がかかることから別名虹光(にじこう)との名前も持つとも言われています。滝の横から急登が始まり途中で展望所が設けられていて滝壺を見ることもできる。旧吉野街道に出てから西河分岐まで林道らしき道をどんどん下降していく。民家の屋根らしきものも見え、おかしいと思いつきながら他にルートがないか探すが結局この道が正規のルートであった。石仏の残る西河分岐から20分で王峠に着き10分ほどで佛が峰に到着。山名の標識はない。王峠や佛が峰の位置はガイドブックなどによって違うようである。ハイキングコースとして整備されたようであるが年月とともに傷んで今では踏み跡も解らない様な状態になっている。もちろん標識もなくテープが所々にある程度です。主稜線を忠実に辿って行くがどこかでルートを外れ541mの枝尾根に迷い込んだらしく気づいたところから下降し林道に降り立つ。林道から正規のルートに戻り五社峠に出る。ここには鹿塩神社が鎮座しその前を通って白倉山を往復する。白倉山から100m西に展望台があり、展望が素晴らしく高見山や台高山地、大峰の山々が見渡せる。五社峠に戻り大滝方面に下るが林道が荒れていて歩きにくい。降り立ったところがバス停のすぐ横でバスの待ち時間も20分ほどで幸運であった。今日は梅雨明け後の山行であったが梅雨明けを実感するほどの暑さを感じない1日でした。 記:杉本(康)</p>				
連番	705 例会No.	一般462	内容 六甲・大池地獄谷~アイスロード	実施年月日 2016/7/31	担当者 大石、翁長
参加者	大石隆生、翁長和幸、秋田文雄、笠松マサエ、寺島直子、安本昭久、安本嘉代、小川眞裕美				参加者数 8

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>暑くなるこの時期、涼しく歩くなら谷筋に限ると今回のコースを計画しました。実際に歩いてみると、流れに沿っていることと木陰になることで涼しく歩くことができました。その分、表側への下山にかかると暑さを厳しく感じましたが、神戸電鉄大池駅から住宅街を通り抜け高速道路へのアクセス道路を進むと地獄谷方面への道標があり、その横には、「大地地獄谷道は、途中の砂防ダムに水が溜まり、登山道が水没しており通行できません」との注意書きが。登山道の水没については既に聞いていたので、高捲きか、それがだめなら登山道がある東か西の尾根に逃げればよいとそのまま進むことに。高速道路の下から河原となった地獄谷を渡って西尾根との分岐点へ。流れの音を遠くに聞きながら尾根の中腹をトラバース気味に登っていくと地獄谷の流れと出会う。ここから谷歩きが始まる。少し遡ると水晶山第四砂防ダムが現れ、右岸の捲道から堰堤上へ。上流側に下る階段があるが、その先には水面が。注意書きはこのことかと思いきや思いがけず踏まれた捲き道をさらに登り、100メートルぐらい上流で登山道と合流する。小滝やナメが連続する流れに沿って快適に登るうちに両側が笹に覆われるようになってノースロードと合流。ここで涼しい谷歩きは終了。木陰を選ぶように別荘地を抜け、前ヶ辻から夏草が茂ったアイスロードを下って六甲ケーブルの下駅に着き例会を終了した。記:大石</p>										
連番	706	例会No.	一般463	内容	ベーシック登山No.36 北摂・半国山	実施年月日	2016/8/7	担当者	翁長、西村(晶)		
参加者	翁長和幸、西村晶、保木道代、安本昭久、安本嘉代、寄川都美子、大森朋江、小川眞裕美									参加者数	8
担当者コメント	<p>赤熊バス停でタクシー下車。20m程横に半国山への道標がある。たんぼ道の両側の稲にはもう穂がついている。けもの用の柵を過ぎ沢沿いの林道をたどると、音羽の滝と思われる小滝に出会う。しかし違った。小さすぎるようだ。先に進むと、今度は間違いないと思うような滝が出てきた。覗いてみると大きくもなく、小さくもない滝であった。さらに沢沿いのゴーロ道を行くと、先ほどより少し大きめの滝が出てきた。この滝が音羽の滝らしく標識があった。ゴーロ道が終わり山道になると牛つなぎ広場(主稜線のコル)に近い。今日は樹間を吹き抜ける風が冷たく心地よい。牛つなぎ広場から30分程で、切り開きのある盛り上がった頂上に出た。木陰でランチタイムとする。頂上からは、ほぼ360度見渡せるが、残念ながら見える山は山名が全く分からない。頂上からドンドン下り金輪寺への車道にて40分程で宮川バス停へ。集落に入るとコンクリートの照り返しと、吹いてくる温風でムツとする。今日は真夏のハイキングでしたが、山の中では木々の間を吹き抜ける風が冷たく、涼しい時を過ごせました。記:翁長</p>										
連番	707	例会No.	OP232	内容	大峰・上多古川 上谷遡行	実施年月日	2016/8/11	担当者	板谷、大石		
参加者	板谷佳史、大石隆生、保木道代、小川眞裕美、古松育代、江本恭子									参加者数	6
担当者コメント	<p>EPEのレベルに相当でヒルが居そうにない沢登りを・・・という条件で、しかも例会を実施していないコースを探すのはかなり困難になってきました。清流と滝に巡り合う感激が忘れられず、例会としては5年ぶりに大峰の沢を訪れました。やはり期待に反せず、清く澄んだ水の流れと豪快な滝、夏の日差しに輝く樹林を堪能できました。ヒルの出没を覚悟で入谷しましたが、全く姿を見なかったのが快適さを増してくれました。ただし帰り道、蜂に刺された人一名、これは不運でしたが・・・。バス便が一日一便しかなくその乗車時刻に縛られること、また往復の林道歩きにかなり時間を費やしてしまい、遡行時間を制限されてしまったのは残念でした。やはり交通手段をもっと考えるべきであったのが反省点でした。バス時刻が迫る帰り道を急ぎながら、上多古集落近くの河原にはファミリーキャンプが賑やかでしたが、このきれいな流れをゴミで汚さないように願わずにはおれませんでした。記:板谷</p>										
連番	708	例会No.	一般464	内容	山本山～賤ヶ岳・大岩山 歴史探訪シリーズNo.33	実施年月日	2016/8/11	担当者	小椋(勝)、杉本(康)		
参加者	小椋勝久、杉本康夫、黒澤百合子、和田敬子、和田都子、藤田喜久江、飯尾廣子、岡本佳久									参加者数	8
担当者コメント	<p>11日は山の日と言うことだが お盆前と言うことと最近の暑さで、参加者はいないのでとは思いつつ大阪駅へ、しかし心配はどこかへ、6名の参加者が待っていました。暑いのにみなさん元気やなと考へながら約2時間近く電車で揺られ河毛駅へ着く。河毛駅からはコミュニティバスに乗り20分程度で宇賀神社へ着く宇賀神社で挨拶を済ませ山本山へ向かう。宇賀神社からはいきなり上り坂、標高はないが風もなく暑いので熱中症を心配しながら重い足取りで登っていく、30分程で頂上に着くと頂上で一休みし山本山の歴史を語る。最近の暑さ 水分補給だけはしっかりと2.5リットルを持ってきたが稜線に出ると琵琶湖からの心地よい風が吹き暑さを感じさせない、山本山から賤ヶ岳向かう尾根道は古保利古墳群が点在し、西には奥琵琶湖の絶景、東には伊吹山、小谷城、虎御前山が望むことができ尾根の所々には切掘りの跡が見られ歴史好きにはたまらんなと思ひながら歩く。途中ハイカーがリフトの管理人さんから『今朝小熊を見たから注意なさい』と言われたと教えてくれましたが、幸い熊に出会うこともなく賤ヶ岳へ到着 賤ヶ岳で十分休憩と水分補給し大岩山へ向かう、ここまでくれば後は下り坂、のんびりと歩きながら余呉の集落へ下山する。やはり平地は暑い足早に余呉駅に向かい駅で解散する。毎日高温注意報が出る中の低山歩き熱中症は？誰か倒れるのではなどと心配しましたが無事15Kmほどを歩くことができました。記:小椋(勝)</p>										
連番	709	例会No.	一般465	内容	金剛山・妙見谷～大日岳	実施年月日	2016/8/21	担当者	西村(晶)、翁長		
参加者	西村晶、翁長和幸、岡本佳久、保木道代、小川眞裕美、安本昭久、安本嘉代、寄川都美子、秋田文雄、笠松マサエ、寺島直子、小椋美佐、安岡和子、大森朋江、前田守									参加者数	15
担当者コメント	<p>金剛登山口より道路を少し歩いて妙見谷に入ると一気に涼しさを感じました。谷筋に流れる水の音を聞きながら、小滝を越えて涼しい谷をゆっくと進みます。2時間程で国見城跡に到着して涼しい木陰の下で昼食とする。少し寄り道をして大日岳(1,094m)の頂上に向かう、気温は24.5度です。頂上よりセトに向かう尾根道で冷風が身体を通り過ぎて行きます、涼しい、涼しい。真夏は涼しい谷歩きが良いですね。記:西村(晶)</p>										
連番	710	例会No.	一般466	内容	長命寺～津田山	実施年月日	2016/8/28	担当者	板谷		
参加者	板谷佳史、岸田暎子、保木道代、寄川都美子、小川眞裕美、小椋美佐、村木正人、和田敬子、實操綾子、藤田喜久江、山本京子、和田都子、梅田寛子、村木とも子									参加者数	14

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

担当者コメント	長命寺には33ヶ所参拝として訪ねたことはあるが、お寺の上に奥島山の山塊が続いているのが気にはなっていたが登る機会が無かったので今回の例会で一つ気がかりが減りました。朝からどんよりとした曇り空で雨を覚悟しての出発でしたが、傘でも十分な程度の降り方で、午後には晴れ間が出るほどの天気になったのはラッキーでした。他の湖南、湖東の山と同じように山頂近くには巨岩が点在することで単調さを紛らわしてくれました。ただしあまり歩かれていないのか、一部下草が茂っているうえに蜘蛛の巣の多さには閉口しました。下山口で入浴する企画になっていたのですがサッパリできて最高でした。記:板谷									
連番	711	例会No.	一般467	内容	六甲・西山谷	実施年月日	2016/9/4	担当者	大石、翁長	
参加者										
担当者コメント	増水のため中止									
連番	712	例会No.	一般468	内容	ベーシック登山No.36 六甲・摩耶山周辺読図例会	実施年月日	2016/9/11	担当者	野原、翁長	
参加者	野原勇、翁長和幸、寄川都美子、保木道代、西村晶、上田俊之、村木とも子、三原博子、安岡和子、小椋美佐、前田守、小川眞裕美、板谷佳史、小杉美代子、西村美幸、岡本佳久、青木義雄、杉本栄子、和田敬子、岸田暎子、黒澤百合子									
参加者数										21
担当者コメント	読図・・・この言葉を聞いただけで拒否反応を起こす人もいますが、山を登る以上は絶対避けて通ることのできない道、避けてはならない道です。神戸登山研修所では、5月に実施した読図講習会の反省を踏まえて、理論ではなくより実践的な講習を行いました。先読みの重要性を説明し、地形図から予定ルートの「先読み表」を作成。また今回は手軽に何時でも使えるように「正置、現在地確認、進行方向確認、山座同定」の4項目に絞った1枚の携帯用カードを配布。理解し易く、常時持っても抵抗を感じないコンパクトさを目標に試行錯誤を繰り返して作成しました。このカードに記載したとおりのことを実践できれば、読図の第一段階は卒業です。読図本等では無視されている技術ですが、私は経験上から歩測によるルート維持を活用しています。ただ弱点としてほぼ平坦な場所に限られる点ですが、それを知った上で使えば、市街地や平坦な林道・山道歩行では強力な武器となり得ます。今回体験していただきましたが、歩測歩行のノウハウを知り、使い慣れれば誤差10%程度に持っていきます。東山尾根やアドベンチャールートに引かれた登山道は実際とは一部相違していました。分かりましたか？等高線の1本1本は航空測量によって極めて正確に引かれていますが、登山道は航空測量からは正確に把握できず、想像によって引かれている面があります。等高線は裏切りませんが、登山道は少し裏切っています。多少の欠点がありますが、それでも現時点で正確さにおいて地形図を超える存在はありません。信頼に値する物です。今回の例会は読図をテーマとしており、途中で説明とかに十分過ぎる時間をとりました。厳しい暑さと疲労も考え、掬星台で本日の行動は打ち切りとしました。分岐や方向変換地点で何度も注意をしましたが、進行方向の確認は道標やテープ、思い込み、他の人の言動に惑わされてはいけません。頼るのは地形図とコンパスだけです。正解は地形図とコンパスの中にあります。このことを徹底して心に刻んでください。記:野原									
連番	713	例会No.	OP233	内容	六甲・菊水山月見登山	実施年月日	2016/9/17~18	担当者	板谷、山倉	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	714	例会No.	一般469	内容	台高・白屋岳	実施年月日	2016/9/18	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	715	例会No.	OP234	内容	東北・朝日連峰・大朝日岳～以東岳	実施年月日	2016/9/22~25	担当者	板谷、杉本(康)	
参加者	板谷佳史、杉本康夫、小川眞裕美、小椋美佐、保木道代、前田守、安岡和子									
参加者数										7

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

<p>担当者コメント</p>	<p>9/22 前夜発の夜行バス乗車組と当日新幹線乗車組が山形駅で合流、雨が降り出した左沢(あてらざわ)駅から予約したジャンボタクシーで朝日鉱泉に向かう。途中でワイン祭(左沢線は別名フルーツライン)の会場に寄ってくれたがかなりの雨になってきて早々に引き上げて今日の宿泊地朝日鉱泉へ…。鉱泉入浴後、山の幸の食事と山形の酒を頂き明日への英気を養う。小屋主の予報では明日朝にはいったん止むとのことだが、雨は相当な強さで一晩中降っていた。9/23 弁当にもらった朝食等を済ませ、6:00 雨はほとんど止んでいるが下草は濡れているし、樹上からのしずくもあるから傘や雨具を着けての出発。朝日川に沿った道を2時間50分で中ツル尾根の取り付けへ、二合目550mの表示があるからここから標高差1200mのひたすらの急登である。終始美しいブナ林が続く。時おり暑い日差しが射すほどの天気になったのだが、大朝日岳直下の稜線に出る頃には雨模様となりガスに包まれた展望皆無の山頂に立つ。早々に立ち去って大朝日小屋に駆け込んでしばし休憩させてもらう。更に縦走路を行くと次第に風雨が強まり、西朝日岳を通過後はどうなるか?というほどの横なぐりの強風雨となる。それも1時間ほどのがまん、竜門山を通過する頃には弱まり今日の宿泊地竜門小屋に入る。最盛期を過ぎて小屋管理者は居らず、ビールを譲ってもらうこともできない。明日は晴れるはずと期待して持ち上げたワイン、焼酎で大朝日岳登頂を祝って乾杯。9/24 期待通り清々しく晴れた。通過してきた文字通り朝日に映える大朝日岳を振り返りながら、北に月山や羽黒山、東に蔵王連峰、南に飯豊連峰が雲海の上に浮かんでいる。更に西には日本海の海岸線と佐渡島までを眺めながらの縦走が続く。寒江山(1695.5m)~三方境(1591m)を経て狐穴小屋着。小屋管理者が居て「ビール譲ります(800円)」と張り紙あるのを横目に見ながらの休憩。続いて200名山というだけあって雄大な山容の以東岳を目指す。以東岳山頂からは今日の宿泊地である大鳥小屋のある大鳥池が見下ろせる、あとひとがんばりだ。紅葉の始まった三角峰への稜線が美しい中を辿る。更に気力を振り絞って疲れた足にはこたえる急下降で大鳥池畔の大鳥小屋に降り立ち、今日の行程が終了した。ここまで降りるとビールは500円になった、上で買わなくてよかった。屋外のベンチに集合して食事をする、そんなことができる天気ありがたい一日であった。9/25 最終日も好天で明けた、予約してある泡滝ダムからの登山ハイヤーに遅れないよう先を急ぐ。ダムの駐車場に到着するとタイミング良くハイヤーが来てくれ時間待ち無しで乗車、「日帰り温泉ぼんぼ」で下してもらい。三日間の汗を流してゆっくりできた。その後、路線バスにてJR鶴岡駅へ向かう。そこで解散とする。前半は風雨にさらされ、なんの展望も無く辛い例会となりましたが、その分後半の好天で十分取り戻せたのではないのでしょうか。鶴岡駅で解散後は新幹線帰阪組、夜行バス帰阪組、東北旅行組に分かれることとなりました。記:板谷</p>				
<p>担当者コメント</p>	<p>連番 716 例会No. 一般470 内容 金剛山地・東條山~タンポ山</p>	<p>実施年月日 2016/9/22</p>	<p>担当者 西村(晶)、野原 参加者数 4</p>		
<p>担当者コメント</p>	<p>参加者 西村晶、野原勇、黒澤百合子、小杉美代子 林道大住谷の上部は荒れた道となっています、谷道は風も無くて蒸し暑いですが、三つの小谷出合より右側の谷沿いに登り尾根上に出るとひんやりとした風が迎えてくれました。地図を広げて現在地と進む方向の確認を行いながら東條山を目指す。お天気もなんとか持ちそうな感じの雲の動きである、12時から降水確率が70%の予報では悩む所である。参加者が2名なので読図の復習を行いながらの五条林道に下る、花尾山の方向を確認する、円錐形の小さな山です、かすかな踏み跡を探しながら高い方向に登ると、山頂に標識が吊り下げられていました。林道より30m程の山なのですがなぜか小さな喜びを感じた花尾山の頂上でした。記:西村(晶)</p>				
<p>担当者コメント</p>	<p>連番 717 例会No. 一般471 内容 笠間ヶ岳~矢筈ヶ岳</p>	<p>実施年月日 2016/9/25</p>	<p>担当者 小椋(勝)、西村(晶) 参加者数 14</p>		
<p>担当者コメント</p>	<p>参加者 小椋勝久、西村晶、黒澤百合子、村木正人、神阪洋子、寄川都美子、谷村洋子、安本嘉代、小杉美代子、村木とも子、安本昭久、和田都子、岩本和行、江本恭子 大阪は曇り空、米原行の新快速に乗り滋賀県に近づいてくると天候も回復しはじめて石山駅に降りるころには快晴。石山駅でタクシーに分乗し上関バス停へと向かう、タクシー下車後道路わきで挨拶を済ませ参加者に磁石を目的地に合せてくださいと言うが、悪戦苦闘している中で時間も無いし歩き始める。県道から東海自然歩道に入り新茂智神社横を通り登山道に入る谷沿いの快適な登山道をしばらく歩く途中、せっかくなので野原Lの教えを実戦でと思い、今何処にいるか分かりますかと参加者に聞くが中々正解がない、あまり休んでいると時間もたいたいと思いきや、蜘蛛の巣の多い登山道から林道出合を過ぎ、しばらく歩くと鳥居が見えてくるとその先に小さな祠が現れる。笠間岳の岩塊をご神体とするのだろうかと考えていると岩には梯子や鎖が有るので登ってみると岩の上は10帖ぐらいの広さが有り琵琶湖南部の平野が一望できた。笠間岳から矢筈岳分岐までの登山道は変化に富んで面白いが分岐から矢筈岳の登山道は景色も眺められず単調な道を歩く、さすがに矢筈と言うだけに最後の登りは急勾配、息を切らせながら登りきると展望のない頂上に着く頂上で昼食を取り出発、後は下りだけの道、時間を気にしながら東海自然歩道に向かって下降し、恐ろしく単調な長い自然歩道をバス停まで歩いた。記:小椋(勝)</p>				
<p>担当者コメント</p>	<p>連番 718 例会No. 一般472 内容 六甲・石楠花山~市ヶ原</p>	<p>実施年月日 2016/10/2</p>	<p>担当者 大石、板谷 参加者数 17</p>		
<p>担当者コメント</p>	<p>参加者 大石隆生、板谷佳史、横山寿夫、小川眞裕美、西村晶、西村美幸、寄川都美子、保木道代、梅田寛子、山本京子、三原博子、岩本和行、青木義雄、藤田喜久江、和田都子、安本昭久、安本嘉代 10月になったというのに歩き始めたころは梅雨の中休みのような天気で、蒸し暑くて薄暗い炭ヶ谷をひと汗もふた汗もかきながら登っていく。尾根に出ると吹く風はひんやりとしていて、足元に見かける実が食べられたアケビやはずた柴栗に秋の訪れを感じさせられる。石楠花山の展望台からは下り一方と気が緩んだせいこコースを間違え、20分ほど余分な車道歩きをすることに。黄連谷からトエンティクロスへ下ると木橋や棧道が整備されていて、飛び石で流れを渡ったのは2回だけ。砂防堰堤に砂と水が溜まって上高地の大正池のような風景が現れ、その上流には河童橋と名付けられた木橋も。以前と比べ大きく様変わりしている。堰堤を幾つか越えて布引へと下り、みはらし展望台で解散とした。記:大石</p>				
<p>担当者コメント</p>	<p>連番 719 例会No. 一般473 内容 河内弘川寺~葛城山高原~岩橋山~當麻寺</p>	<p>実施年月日 2016/10/9</p>	<p>担当者 山倉、西村(晶) 参加者数</p>		
<p>担当者コメント</p>	<p>参加者 雨天中止</p>				
<p>担当者コメント</p>	<p>連番 718 例会No. 一般474 内容 鈴鹿・那須ガ原山~油日岳</p>	<p>実施年月日 2016/10/10</p>	<p>担当者 杉本(康)、板谷</p>		

2016年度('15/11~'16/10)EPEクラブ活動報告

2016/10/E現在 板谷

参加者	杉本康夫、板谷佳史、小川眞裕美、安岡和子、安本嘉代、安本昭久、江本恭子、馬場美穂子、村木とも				参加者数	9									
担当者コメント	昨日までの雨と蒸し暑さからうって変わって今日は晴れて涼しく爽やかな天候となった。10月10日は晴れの特異日と言われているが、その通りになった。甲賀駅で予定していたタクシーが1台しか手配できず、駅からピストンで参詣橋付近まで乗せてもらう。そのため唐木山経路を取りやめ直接那須ガ原山に登ることにした。参詣橋からしばらく歩くと直径1mぐらいの石が林道にゴロゴロしていて山が荒れているなあと感じる。登るにつれて展望がよくなり遠く鎌が岳や御在所岳など、眼下には今通ってきた大原貯水池も望まれる。稜線上は気持ちの良い北風も時間の経過とともに寒く感じられる。風のない所では温かいが。那須ガ原山からはやせ尾根となり、小さなピークの急登、急下降が連続する。2か所3点支持が必要な登りも出てくる。油日岳には岳大明神が祀られていて、すぐ下には宿泊できる無人小屋もある。油日岳登山口まで下山するもタクシーは見込めず、途中の油日神社を横目にただひたすら油日駅目指して歩くのみ。その甲斐あって発車5分前に駅に着くことが出来た。 記:杉本(康)														
連番	719	例会No.	一般475	内容	播州西脇・P450無名峰	実施年月日	2016/10/16	担当者	紀伊埜本(節)、小椋(勝)						
参加者	紀伊埜本節雄、小椋勝久、三原博子、池田える子、梅田寛子、佐藤敏子、寄川都美子、保木道代、寺島直子、西村晶、青木義雄、板谷佳史、岩本和行、小川眞裕美、大森朋江、實操綾子、藤田喜久江、和田敬子、和田都子、安本嘉代、安本昭久				参加者数	21									
担当者コメント	播州の山では思いがけない愉しさに出会うことが多い。EPEの例会から見ても明神山、伊勢山、七種山、高御位と次々に浮かんでくる。大阪から少し遠いのが玉に瑕だが、低い山でもアレアレと思う露岩に出会うと思わず頬がゆるむ。何のことはない岩さえあればそれでいいのか、と言うわけではない。低い山でも、そこにちょっとしたスリリングな未知があれば、少なくとも私は大いに満足する。さらにそれが予期せぬものであれば大いに感動する。この愉しさは、決して私ひとりのものではないと思う。今回の例会は、2012年、三草山(歴史探訪)の山頂からこの山塊を眺めたのが動機でした。機会があれば行ってみたいと、その直後から地図上の無名峰のまま企画を温めていました。しかし実施直前になって調べてみると、何んと好んで足繁く通っておられる登山者が多々居られるようであります。たとえ小さな低い山でも、その愉しさに魅かれる気持ちはよく解ります。その方々に敬意を表しながら、新鮮な気持ちで、あと2~3回は登ってみたい山だと思いました。 記:紀伊埜本(節)														
連番	720	例会No.	一般476	内容	丹波・姫髪山と福知山城 歴史探訪シリーズNo.34	実施年月日	2016/10/23	担当者	板谷						
参加者	板谷佳史、岩本和行、寄川都美子、和田敬子、岸田暎子、安本嘉代、和田都子、村木とも子、梅田寛子、三原博子、藤田喜久江、小川眞裕美、保木道代				参加者数	13									
担当者コメント	福知山市街地の西北にある姫髪山はその南面で毎夏「丹波大文字焼き」が行われるとあって福知山市街からよく目立つ。その山麓、紅葉にはまだまだ早い長安寺から歩き始める。往復2時間ほどの簡単な山である。山頂で早い昼食を済ませ、しばし明智光秀談議に花が咲いた。元来た長安寺をしばらく覗いた後、往路タクシーで来た道を歩いて福知山市街へ戻る。城下町風の街並みや光秀ゆかりの神社などを見物しながら福知山城へ。丹波地方では城跡しか残っていないところが多いがここでは天守台や本丸が復元整備されている。内部を見学し、休憩できる座敷でゆっくりしました。帰りの乗車まで時間があつたので駅近くの産直品売場で丹波の名産など買い込むことができました。ちなみに「福知山親名山10選」とは、大江山、赤石岳、岩戸山、三岳山、宝山、鬼ヶ城、烏ヶ岳、姫髪山、烏帽子山、鹿倉山。EPE例会では今回で4山登ったことになります。交通の便だけが問題なのですが機会があれば残りの山も例会に取り上げたいものです。 記:板谷														
連番	721	例会No.	一般477	内容	金剛山地・田山~府庁山	実施年月日	2016/10/29	担当者	西村(晶)						
参加者	西村晶、寄川都美子、安本嘉代、小川眞裕美、保木道代、青木義雄、安本昭久、江本恭子、小椋美佐、大森朋江、翁長和幸、和田良次、西村美幸、小原武尚、上原進一				参加者数	15									
担当者コメント	金剛山地北面側よりダイヤモンド・トレイル縦走路に出る登山道は沢山あります、登った事の無い小さなピーク、不明瞭な踏み跡をたどりながらの山道、700メートルにも満たない山城ですが、なかなか面白いと感じています、小さな標識に記された山名を見つけ出す喜びもあります。はるか彼方の目的地に向かって一歩一歩、高みに登る行為はアルプスの山々を歩く時と同じ感覚です。次の山に登る為の準備を怠らずに、何時でも登れるように体力作りの準備をしましょう。主稜線より外れた尾根道よりタンボ山に向かう登山コースは、十字峠より先の道は不明瞭で地図と磁石は必要です。 記:西村(晶)														
一般例会(新年会含む) :		54回 / 739名		オプション例会 :		11回 / 157名		例会合計 :		65回		参加者総数 :		896名	